

## 2025年度 教育課程（1学年）

区分	教育内容	科目	単位	時間数	備考	掲載ページ	
基礎分野	科学的思考の基盤	情報科学	1	30		18	
		論理学	1	15	試験時間含む	19	
		キャリア教育論Ⅰ	1	30		20	
	人間と生活、社会の理解	心理学	1	30		28	
		人間関係論	1	15	試験時間含む	29	
		社会学	1	30		30	
		コミュニケーション論	1	15		31	
		家族論	1	15	試験時間含む	32	
		生活と健康	1	15	試験時間含む	33	
		ヒューマンケアリング	1	15		34	
小計		10	210				
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造	1	30		35	
		人体の機能	1	30		36	
		生化学	1	30		37	
		栄養学	1	15	試験時間含む	38	
		生命現象のしくみ	1	15		39	
		ナースがみる人体	1	30		40	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30		41	
		検査と治療法概説Ⅰ	1	30		42	
		検査と治療法概説Ⅱ	1	30		45	
		病態と診療Ⅰ	1	30		48	
		病態と診療Ⅱ	1	30		52	
		病態と診療Ⅲ	1	30		55	
		薬理学	1	30		58	
		微生物学	1	30		59	
	小計		14	390			
	専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30		60
			看護リフレクションⅠ	1	30		61
共通技術論Ⅰ			1	30		62	
共通技術論Ⅱ			1	30		63	
共通技術論Ⅲ			1	30		64	
日常生活援助論Ⅰ			1	30		65	
日常生活援助論Ⅱ			1	30		66	
診療・検査時の援助論			1	30		67	
治療・処置時の援助論			1	30		68	
臨床看護総論			1	30		69	
臨床判断			1	15		72	
地域・在宅看護論			地域の理解	1	30		73
		在宅ケアシステム	1	30		74	
		地域・在宅看護の対象理解	1	15		75	
成人看護学		成人看護学概論	1	30		76	
		周手術期援助論	1	15	試験時間含む	80	
		成人看護援助論Ⅰ	1	30		81	
		成人看護援助論Ⅱ	1	30		84	
老年看護学		成人看護援助論Ⅲ	1	30		87	
		老年看護学概論	1	30		90	
臨地実習		基礎看護学実習Ⅰ	1	40		91	
小計		21	595				
総合計		45	1195				

科目名 情報科学	授業担当者 上田 晴彦	所属 秋田大学	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 情報科学の入門的な講義・演習であり、情報社会に参画するための態度の育成、および看護・医療における情報活用能力を高めることを、授業の目的とする。			
<b>授業の概要</b> 以下の3点に注意しながら、授業を進める。 1. 情報社会に参画するための知識・態度を習得する。 2. 看護・医療におけるコンピューターシステムの活用、および情報セキュリティについて知る。 3. Windows 用アプリケーションソフト(ワード・エクセル・パワーポイント)の基本操作を習得するだけでなく、データサイエンス(DS)の基礎が理解できるようになる。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 事前に授業内容を記した資料を電子媒体で配布するので、各自タブレット端末に入れておく、または印刷のうえ当日に持参すること。また授業開始前日までに、学習内容に目を通しておくこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	情報社会への参画	講義	
2	情報とは何か	講義	
3	情報の表現	講義	
4	コンピュータの構造	講義	
5	ワード(基本操作)	演習	
6	ワード(レポートの書式)	演習	
7	エクセル(表作成)	演習	
8	エクセル(グラフ作成)	演習	
9	エクセル(データベース)	演習	
10	DS 入門(平均)	演習	
11	DS 入門(標準偏差)	演習	
12	パワーポイント	演習	
13	医療と情報システム	講義	
14	看護・情報における倫理	講義	
15	情報セキュリティ	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 講義資料を電子媒体にて配布する。			
<b>参考書・指定図書</b> 適宜指定する。			
<b>評価の方法</b> 最後に試験を実施し、その成績により評価をおこなう。			

科目名 論理学	授業担当者 佐藤 雅彦	所属 秋田大学	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
<b>授業の目的</b> 1. クリティカル思考とはどのようなものかを概観する。 2. 論理的な文章の構成について学習する。			
<b>授業の概要</b> 1. クリティカル思考について学ぶ。 2. 論理的な文章の作成に必要ないくつかの要素について理解を深める。 3. 上の二つを用いた最終課題(小論文)に取り組む。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	ガイダンス クリティカル思考 1、小論文の特徴・書き方を知ろう	講義・演習	
2	クリティカル思考 2、論理的な文章の書き方 1	講義・演習	
3	クリティカル思考 3、論理的な文章の書き方 2	講義・演習	
4	クリティカル思考 4、論理的な文章の書き方 3	講義・演習	
5	クリティカル思考 5、論理的な文章の書き方 4	講義・演習	
6	論理的な文章の書き方 5、小論文を書こう 1	講義・演習	
7	小論文を書こう 2	演習	
8	試験		
<b>テキスト</b> テキストなどの資料はプリントして配布します。 プリント類はファイル(クリアブック、ポケットファイルなど)に入れ、毎回持ってくること。			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 評価点は以下の 4 つです。 1. 小テスト(計 25%):クリティカル思考および文章構成に関する知識など。 2. 期末テスト(25%):小テストの問題などからなる。 3. 小論文作成(計 40%):内訳は以下のとおり。 (論理的文章の構成要素の活用 15%、批判的視点の活用 15%、文章のわかりやすさ 10%) 4. 授業への参加度(10%):課題を提出したか、積極的に学習活動を行ったかなど。			

<b>科目</b> キャリア教育論Ⅰ	<b>授業担当者</b> 大塚 紀子 中川 郁子 小田嶋 陽子	<b>所属</b> 中通高等看護学院 中通高等看護学院 中通高等看護学院	
<b>開講時期</b> :前期～後期	<b>単位数</b> :1単位	<b>時間数</b> :30時間	
<b>授業の目的</b> プロジェクト学習とポートフォリオの基本を学び、生活改善プロジェクトを通し、基本フェーズを経験することで、意志ある学びを実現する。			
<b>授業の概要</b> 成長するためには、自らの意思が必要です。キャリア教育論Ⅰでは、意志ある学びを叶えるために、プロジェクト学習とポートフォリオの基本を学び、実践します。看護について学び成長した自分を俯瞰することで、目指す看護師像を明確にできることを期待する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 何のために何を成し遂げたいのか、常に探求する姿勢をもって臨んでいただきたい。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1・2	キャリア教育論とは:プロジェクト学習とポートフォリオの基本 ポートフォリオを使っての自己紹介	講義	
3	生活改善プロジェクト:ライフポートフォリオ共有	演習	
4	多面的・多角的なインタビューの取り方	講義	
5	制作のフェーズ チームテーマ決定・工程表の作成	演習	
6	工程表の確認 凝縮ポートフォリオ作成	演習	
7・8	凝縮ポートフォリオ作成	演習	
9	プレゼンテーション準備	演習	
10・11	プレゼンテーション	演習	
12・13	未来へキャリアストーリーを描こう:自分の意志で未来を描こうプロジェクト	演習	
14・15	「自分の意志で未来を描こう!」プロジェクト -成長報告-	演習	
<b>テキスト</b> 鈴木敏恵著 キャリアストーリーをポートフォリオで実現する 日本看護協会出版会			
<b>参考書・指定図書</b> 鈴木敏恵著 ポートフォリオとプロジェクト学習 医学書院			
<b>評価の方法</b> アクションシート・凝縮ポートフォリオ等知の成果物(70点)、自己評価(30点)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

## プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	「プロジェクト学習・ポートフォリオの基本を理解しよう！パーソナルポートフォリオを使って自己紹介」プロジェクト	
講師/ファシリテータ・協力者ほか	(スーパーアドバイザー：鈴木 敏恵 先生) 大塚紀子・中川郁子・小田嶋陽子 他	
単位・時間・受講対象	4月上旬：2コマ(4時間) 中通高等看護学院 1年生	
事前連絡	パーソナルポートフォリオを作成し、ポートフォリオを用いて自己紹介できるように練習しておく	
学習概要	<p>&lt;概要&gt;今後の学習の道標となるプロジェクト学習についての理解を深めるために、プロジェクト学習とポートフォリオの基本について講義する。その後、各自で作成してきたパーソナルポートフォリオを使って、自己紹介を行う。マスクを着用した状態で社会的距離を取りつつのコミュニケーションとなるため、発声や表情を意識し、自身について伝えあう。これから共に学院生活を互いに過ごす仲間を知る機会とする。</p> <p><input type="checkbox"/> ビジョン：プロジェクト学習とポートフォリオの基本を理解し、ポートフォリオを活用した自己紹介することで互いに認め合いクラスメイトとの関係作りの第一歩とする。</p> <p><input type="checkbox"/> ゴール：プロジェクト学習とポートフォリオの基本をつかむ！クラスメイトのこと(魅力)を知る。</p>	
キーワード	プロジェクト学習    コミュニケーションスキル    ポートフォリオ	
身につく力	<p>専門知</p> <p><input type="checkbox"/> 仕草や表情を交え、相手にわかりやすく伝える力</p> <p><input type="checkbox"/> 発声に留意しつつ相手に伝える力、短時間で自分の思いを書く力</p> <p><input type="checkbox"/> 相手の状態・気持ちを意識した簡潔な表現力</p>	<p>普遍知</p> <p><input type="checkbox"/> 説明力</p> <p><input type="checkbox"/> 端的にプレゼンテーションする力</p> <p><input type="checkbox"/> 聞き取る力</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を具体的につかむ力</p>
評価方法	キャリア教育論 I 10点/100点 アクションシート	
展開内容 (内容・活動)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席確認・ガイダンス</li> <li>2. プロジェクト学習とポートフォリオの基本について講義</li> <li>3. 「パーソナルポートフォリオ活用ワークショップ(自己紹介)」</li> <li>4. プレゼンテーション(共有)</li> <li>5. リフレクション(ライブポートフォリオ：生活改善プロジェクトについてガイダンス&lt;導入&gt;)</li> </ol>	
テキスト・参考図書	キャリアストーリーをポートフォリオで実現する 日本看護協会出版会	
受講生へのメッセージ	<p>プロジェクト学習は、プロジェクトの考え方やセオリーを学習に取り入れた教育手法です。プロジェクトを成し遂げるためには、必要な”知”を手に入れ、課題を解決する必要があります。また、ゴールを見据え「何のために(目的)、何をやり遂げたいのか(目標)」を常に意識していることが必要です。学習の軌跡を一元化するものとしてポートフォリオがあり、日々のプロセスや成果に至る軌跡が見えます。ポートフォリオ通して俯瞰する姿勢や思考の可視化ができ、自ら気づき、自ら学び成長するのを助けてくれます。看護学生として意志ある学びのスタートを切り、自らの目指す看護師像を明確にして、夢の実現のために行動してほしい。</p>	
eラーニング	検索 “未来教育オンライン講座” <a href="http://www.-miraikyouiku-onlinecourse.com/">http://www.-miraikyouiku-onlinecourse.com/</a>	

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

## プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	生活改善プロジェクト		
講師/ファシリテータ/協力者他	(スーパーアドバイザー：鈴木敏恵先生) 大塚紀子・中川郁子・小田嶋陽子 他		
単位・時間・受講対象(人数)	4月～7月 中通高等看護学院 1年生		
学習概要 (社会的意義)	<p>&lt;概要&gt;</p> <p>学生自身の生活シートを2週間記入する。生活シートを書くことは、自分の生活や健康を客観的に見て意識することに繋がる。その生活シートを挟んだライフポートフォリオを他の学生と共有し、「生活・健康」への発想や考えを広げる。その上で、自分と対話しながら生活改善・自己対話シートを書き、改善したい課題を具体的にし、改善後にどうなればいいのかを表現する。</p> <p>同じ課題をもつ学生でチームを作り、チームゴールに向かって、健康生活を叶える提案集をつくる。</p> <p>自分の生活や健康を客観的に見て意識することができるようになれば、看護実践の場で、患者さんの生活や健康をみる力がつく。</p> <p>*ビジョン：看護学生として、自分の健康を自分で守れるようになりたい。</p> <p>*ゴール：1年生に役立つ健康生活をかなえる提案集をつくる！</p>		
キーワード	生活改善 健康維持 メタ認知 飲食 活動 休息 時間管理		
身につく力	<p>専門知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□「生活」を観察する力</li> <li>□食事、睡眠、活動に関する基本知識</li> <li>□メタ認知能力</li> </ul>	<p>普遍知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□課題発見力</li> <li>□根拠を基に提案する力</li> <li>□チームワーク力 (他者と共に考えだす力)</li> <li>□情報収集力</li> <li>□セルフコーチング力</li> <li>□他者の意見を聞き役立てようとする力</li> </ul>	
学習の成果物	健康生活を叶える提案集		
評価方法	キャリア教育論 I 70点/100点 ポートフォリオ評価 (そのうち20点分はピア評価)		
実施月日 4月～7月	4月中旬	5月	6月 7月上旬
	準備	ビジョン・ゴール	計画 情報・解決策 制作 プレゼン 再構築
講義室・場所	中通高等看護学院 図書室・教室1		
展開内容	月日	時間	内容・活動
	4月中旬～		2週間生活シートをつくる
	5月	1コマ	ライフポートフォリオ共有 生活改善・自己対話シートを書く チーム決定 チームテーマ話し合い

	5月	1コマ	講義 ・「多面的・多角的」 ・「知の再構築-5つの条件」「知の再構築-6要素」 ・情報獲得1「問う技法」-インタビュー・アンケート ・情報獲得2「問う技法」-アンケートの作り方 ・グーグルクラスルーム ・凝縮ポートフォリオの作り方
	5月	1コマ	チームテーマ決定 工程表記載 工程表提出、アドバイス
	6月	1コマ	問題解決のための情報リサーチ ・どんな情報を手に入れたいか考える-役割分担 ・基本情報を調べる ・調べたことを体験してみる⇒観察・記録
	6月	2コマ	チームで集めた情報を共有して、凝縮ポートフォリオを作成
	7月上旬	1コマ	プレゼンテーションリハーサル
	7月上旬	2コマ	知の共有/プレゼンテーション
<b>テキスト・参考書</b>	系統看護学講座 専門基礎 栄養学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 看護形態機能学 日本看護協会出版会 アクティブラーニングこえた看護教育を実現する 医学書院 AI時代の教育と評価 教育出版		
<b>履修要件</b>			
<b>他講義との関連</b>	生活と健康 基礎看護学概論 成人看護学概論 日常生活援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 共通技術論Ⅰ 人体の構造 人体の機能 運動生理学 ナースがみる人体		
<b>受講生へのメッセージ</b>	皆さんは、普段の生活の中で健康を意識することはありますか？看護学生として、自分の健康を守るため、自分の身体の声に耳を傾け対話してみましょう。今、自分の身体や生活はどんな感じか、意識することで今まで気づけなかったことに気づけるはずです。そして、より健康になるためにできることを考えてみましょう。この経験は、患者さんの生活や健康をみる力になっていきます。		
<b>プロジェクト学習 e ラーニング</b>	検索 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">未来教育オンライン講座</span> <a href="http://www.mm-miraikyokuiku-onlinecourse.com/">http://www.mm-miraikyokuiku-onlinecourse.com/</a>		

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

## プロジェクト学習・シラバス

<b>科目名(副題)</b>	－ 未来へキャリアストーリーを描こう！ － (1年次 誓いの式に向けて) 「自分の意志で未来へ向かおう！」 プロジェクト		
<b>主講師 (ファシリテータ・協力者)</b>	(スーパーアドバイザー：鈴木 敏恵 先生) 大塚紀子・中川郁子・小田嶋陽子 他		
<b>単位・時間・受講対象</b>	9月中旬～下旬： 2コマ (4時間) 1年生		
<b>学習概要 (社会的意義)</b>	<p>&lt;概要&gt;</p> <p>1年生は、9月に基礎看護学実習Ⅰを行なっている。基礎看護学実習Ⅰでは、臨床看護師のシャドーイングを通し、看護師の役割や機能について学んでいる。また、ロールモデルの後ろを影のようにして同行することで、実際の現場における経験から憧れロールモデルの獲得につながっていると考えられる。看護師の仕事を近くで見ることで、モチベーションが高まり看護への興味・関心や、学習する必要性が高まっている状況である。</p> <p>この講座では、実習での経験を踏まえ看護師の仕事の幅や多様性を理解し、必要な力を知ることによって看護師という職業の価値や魅力を再認識する。ハピネスシートに、未来イメージ(自分が選んだ看護師という仕事の価値・将来“どんな人”をハピネスにしたいか)と、ハピネスシーン(誰かの役に立ったシーン)を自分の言葉で書くことで自尊感情や自己肯定感を高め、自分の意志で未来へ向かう思いを強化する。</p> <p>未来に思いを馳せキャリアビジョンシートを記載する。キャリアビジョンや自己のキャリアストーリーを描き、自ら学ぶために学生自身が目指す看護師像を明確にする。</p> <p>10月には看護師になるという意志を明確にし、宣言する「誓いの式」を執り行う。誓いの式では、この講座で考えたキャリアビジョンを一人一人が宣言し、互いの夢を応援し合う式とする。</p> <p>□ ビジョン：自ら学んでいくために、なりたい看護師像を明確にしたい □ ゴール：看護師の仕事の価値について考え、キャリアビジョンを描く</p>		
<b>キーワード</b>	キャリアビジョン    キャリアストーリー    ハピネスシーン    自尊感情 自己肯定感		
<b>身につく力</b>	<b>専門知</b> <input type="checkbox"/> 看護師の仕事の価値 <input type="checkbox"/> なりたい看護師像をイメージする力	<b>普遍知</b> <input type="checkbox"/> 情報獲得力 <input type="checkbox"/> 自尊感情・自己肯定感 <input type="checkbox"/> 成長しようとする意欲 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション力 <input type="checkbox"/> 他者への関心	
<b>評価方法</b>	キャリア教育論Ⅰ 10点/100点    アクションシート		
<b>展開内容</b>	月日	時間	内容・活動
	9月中旬	1コマ	ハピネスシート記載
	9月下旬	1コマ	1. 本日の流れの説明(俯瞰シート) 2. ハピネスシートの交流 3. キャリアビジョンシートの記載(個人ワーク)・代表者プレゼン 4. リフレクション
<b>テキスト・参考図書</b>	・キャリアストーリーをポートフォリオで実現する 日本看護協会出版会 ・ポートフォリオとプロジェクト学習 医学書院		



<b>受講生へのメッセージ</b>	<p>看護学を学び始め、実際の現場における経験から看護への興味・関心が高まっていること      でしょう。「看護師を志した思いやきっかけは何か」、「どのような看護師になりたいの      か」、「看護師として大切にしたいことや目指したいことは何か」を明確にして、その実現      のためのビジョンを描くことがモチベーションを高くし、日々の学習に取り組む基盤とな      ります。</p> <p>看護師という職業の価値や魅力について再認識し、現時点での自身が目指す看護師像を      自由に描いてみましょう。</p> <p>みなさんの可能性は無限大です。自身が望む未来の実現のために、自身の力で将来を作り      上げていきましょう！</p>
<b>プロジェクト学習 eラーニング</b>	<p>検索 “未来教育オンライン講座”  <a href="http://www.miraikyouiku-onlinecourse.com/">http://www.miraikyouiku-onlinecourse.com/</a></p>

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティ  
 ブシンキングへ』を明記してください。

## プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	ー未来へキャリアストーリーを描こう！(2)ー 「自分の意志で未来を描こう！」プロジェクト ー成長報告ー	
講師／ファシリテータ・協力者ほか	大塚紀子・中川郁子・小田嶋陽子 他	
単位・時間・受講対象(人数)	3月上旬 2コマ(4時間) 1年生	
学習概要 (社会的意義)	<p>&lt;概要&gt;</p> <p>入学して1年。いよいよ進級を迎える。</p> <p>看護師になるために、1年間重ねた学習を通して知識と技術を身につけ、臨地実習では、看護師の仕事を見て学び、患者との接し方やニードについて考え、成長してきた。</p> <p>今回は、自分自身の成長を可視化するために、成長エントリーシートにポートフォリオを俯瞰し、成長したこと、考え方や視点などを記載し、その中から成長best3を成長報告書に記載する。成長報告をプレゼンテーションすることで、1人ひとりの価値ある経験を共有する。また、2年生の成長報告を聴くことで、未来の自分をイメージすることができる。長期的ルーブリックで自分を振り返るとともに1年後の姿をイメージさせる。今後、どんな学習を積み重ねて看護師を目指すのか、2年生の姿と自分の成長を重ね、一人ひとりが自分の資質や、看護という仕事の価値に気づき、モチベーションを高め、意志ある学びを確認する機会とする。</p>	
キーワード	経験の価値化 暗黙知の顕在化 記憶の可視化 資質 成長 キャリアビジョン キャリアストーリー	
身につく力	<b>専門知</b> <input type="checkbox"/> メタ認知能力 <input type="checkbox"/> 経験の価値化 <input type="checkbox"/> 暗黙知の顕在化 <input type="checkbox"/> 自分の意志で目標へ向かう力	<b>普遍知</b> <input type="checkbox"/> 俯瞰力 <input type="checkbox"/> 自尊感情、自己肯定感 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション力 <input type="checkbox"/> ビジョンを描く力 <input type="checkbox"/> より成長しようとする意欲
学習の成果物	「成長報告書」と「私の履修カルテ」	
評価方法	アクションシート 10点/100点	
実施計画／関連予定	9月中旬～下旬ー未来へキャリアストーリーを描こう(1)ー「自分の意志で未来へ描こう！」 プロジェクト 実施計画 2月下旬 ガイダンス 「成長エントリーシート」「成長報告書」配布 3月上旬 1. 「成長エントリーシート」の交流 2.共有したことから「感じたこと・考えたこと」記載し、共有 3. 長期的ルーブリックの記載 4. キャリアビジョンシートの記載および交流	
講義室・場所	中通高等看護学院 教室1・2	
展開内容	目的(ビジョン)：この1年間の自己の成長を自覚し、1年後の自分の姿をイメージできるようになる！ 目標(ゴール)：この1年の成長(価値ある学び)を共有し、キャリアビジョンを描くことができる。 1. 今日の流れの説明(俯瞰シート) 2. 「成長エントリーシート」の交流 3. 共有したことから「感じたこと・考えたこと」記載し、共有 4. 長期的ルーブリックの記載 5. キャリアビジョンシートの記載および交流 6. リフレクション	

テキスト・参考図書	キャリアストーリーをポートフォリオで実現する ポートフォリオとプロジェクト学習 医学書院 日本看護協会出版会
他講義との関連	キャリア教育論II
受講生へのメッセージ	<p>この1年間、講義・実習を通して看護の基礎となる基礎知識や専門知識を学んできました。実習では、患者さんとの出会いがあり、その関りから得たものは計り知れないものです。誓いの式では、自分の看護師としてのビジョンを描き公言しました。経験を通して人は成長します。この1年をポートフォリオをめくり、俯瞰し、シートに書くことで自分の成長を確認しましょう。そして価値ある経験を共有しましょう。</p> <p>そして、先輩たちの成長報告を聴くことで、4月から、2年生になる自分をイメージし、学習を重ね、キャリアビジョンを描いて、自分の望む未来に向かって自分で成長していきましょう！ 未来は皆さんのものです！</p>
プロジェクト学習 e ラーニング	<a href="http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/">http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/</a>

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

科目名 心理学	授業担当者 半田 温子	所属 元秋田大学 臨床心理相談室	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 心理学の基本的概念を学習し、日常生活でみられる現象や行動を心理学的観点から理解する。			
<b>授業の概要</b> 心理学は、「人のこころとは何かを問い、こころの働きを明らかにする」学問領域とされる。当科目では、心理学の各分野における基本的概念について学習する中で、私たちの身のまわりでみられる現象や行動について、心理学的観点から改めて考える。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 授業の中で学習したことを、日常生活や医療場面でみられる現象や行動に結び付けて考えてみようとする姿勢が求められる。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	心理学とは	講義	
2	知覚	講義	
3	学習	講義	
4	記憶	講義	
5	動機づけ	講義	
6	感情	講義	
7	パーソナリティ	講義	
8	知能	講義	
9	思考	講義	
10	発達(1) -児童期まで	講義	
11	発達(2) -青年期以降	講義	
12	人間関係	講義	
13	集団	講義	
14	精神的健康	講義	
15	カウンセリング	講義	
	心理学の応用分野	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 二宮克美 編 ベーシック心理学 医歯薬出版			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験、出席・参加状況により総合的に評価する			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 人間関係論	授業担当者 菅原 美紀	所属 中通総合病院 心理療法室	
開講時期:中期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
<b>授業の目的</b> 相互に影響を与えながら形成される人間関係に関する理論を学ぶ事で、現実場面で起きている現象を心理学的な視点から理解し、円滑な人間関係を作り上げる力を養うための糧にする。			
<b>授業の概要</b> 人間関係に関連する心理学の概念や理論、人間関係をつくるために役立つ理論や技法、看護の現場における様々な人間関係について学ぶ。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書を予め読み、理解しておくことが望ましい。必要時資料は印刷して事前に準備すること。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	人間関係の中の自己と他者・対人関係と役割	講義	
2	態度と対人行動・集団と個人	講義	
3	コミュニケーション・カウンセリングと心理療法	講義	
4	コーチング・アサーティブ・コミュニケーション	講義	
5	保健医療チームの人間関係	講義	
6	患者を支える人間関係	講義	
7	家族を含めた人間関係・地域をつくる人間関係	講義	
8	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 基礎 人間関係論 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 必要時に紹介する			
<b>評価の方法</b> 出席、筆記試験による			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 社会学	授業担当者 石沢 真貴	所属 秋田大学教育文化学部	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:30	
<b>授業の目的</b> 社会学の基礎概念(社会的行為、社会関係、集団・組織、制度等)を理解し、医療・看護の課題に応用できる知識を理解できるようにする。 社会学的視角を学ぶことで、社会的事象を多角的に捉えて考察できるようにする。			
<b>授業の概要</b> 社会学の基礎概念の説明と医療・看護の現場における応用について説明する。 現代社会における様々な社会現象とその諸課題・問題を取り上げ、多角的に考察する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 配布資料に目を通し、授業の内容や流れを理解しておくこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	社会学とは何か	講義	
2	I 社会学の基礎概念 1 自己と他者	講義	
3	2 行為と規範	講義	
4	3 集団・組織・ネットワーク・制度	講義	
5	4 医療・福祉と社会学	講義	
6	II 現代社会の諸課題 1 少子化・高齢化・人口減少	講義	
7	2 家族の変容	講義	
8	3 家族とジェンダー	講義	
9	4 変容するコミュニティ (1)農山村	講義	
10	4 変容するコミュニティ (2)中心市街地	講義	
11	4 変容するコミュニティ (3)住民自治と地域再生の課題	講義	
12	5 グローバル化と多文化社会	講義	
13	6 現代の貧困問題	講義	
14	7 労働と人権問題	講義	
15	まとめ これからの社会にむけて	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 使用しない。必要に応じて資料等を配布する。			
<b>参考書・指定図書</b> 系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院			
<b>評価の方</b> 記述試験を行う。場合によりレポート課題を課す。			

<b>科目名</b> コミュニケーション論	<b>授業担当者</b> 庄司 信 高橋 静子 高橋 千歳	<b>所属</b> 日本赤十字東北看護大学(非常勤講師) あきた AT 研究会 株式会社プレステージヒューマンソリューション	
<b>開講時期</b> :前期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :15 時間	
<b>授業の目的</b> 1. 異なる立場や年代の人々とのコミュニケーションのあり方や方法について学ぶ。 2. 看護職として求められる多様な人々の生活や人権を尊重したコミュニケーション能力を身につける。			
<b>授業の概要</b> 1. コミュニケーションの意義を理解した上で、ロールプレイなど演習を通して看護師に必要となる実践的なコミュニケーション技術を習得する。異なる立場や年代の人々とのコミュニケーションのあり方や方法を考える機会としたい。 看護におけるコミュニケーションの基礎と実際については、この科目の後(ほぼ同時期)に、共通技術論 I の科目の中で4回(講義2回、演習2回)学習する。この後の臨地実習の場において、患者とのコミュニケーション、学生間や医療チームにおけるコミュニケーションにいかせるようにしたい。 2. 価値観が多様化した社会の中で生き抜くため、専門知識と技能の習得のみではなく、人間的な基礎力を習得し、アサーティブな自己表現(知識・ロープレ)を学ぶことで、表現力を高め、より良い人間関係を構築する事が営めるようになることが期待される。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 資料のプリントアウトの有無は個々の判断。(高橋静子先生) 臨地実習でのコミュニケーションをイメージし、ビジネスマナー研修で何を学びたいか自身の目標を考えて受講してほしい。(高橋千歳先生)			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	人格の形成・維持・変容とコミュニケーション	講義	庄司 信
2	社会システムの生成・維持・変容とコミュニケーション	講義	庄司 信
3	看護師という仕事とコミュニケーション	講義	庄司 信
4	アサーティブなコミュニケーションの基本	講義・演習	高橋静子
5	アサーティブなコミュニケーションの技法	講義・演習	高橋静子
6	アサーティブの実践のポイント	講義・演習	高橋静子
7	演習とフィードバック・まとめの試験	講義・演習	高橋静子
8	ビジネスマナー基本原則 身だしなみ 態度	講義・演習	高橋千歳
	試験		
<b>テキスト</b> 講師が準備(高橋千歳先生)			
<b>参考書・指定図書</b> アサーティブトレーニング BOOK(新水舎) よくわかるアサーション自分の気持ちの伝え方(主婦の友社)(高橋静子先生)			
<b>評価の方法</b> 筆記試験・レポート・授業への出席および程度により総合的に評価する。 庄司先生 40 点 高橋静子先生 45 点 高橋千歳先生 15 点			

科目名 家族論	授業担当者 大塚 紀子	所属 中通高等看護学院	
開講時期: 中期～後期	単位数: 1 単位	時間数: 15 時間	
<b>授業の目的</b> 家族とは何か、現代社会の家族問題や心理について学び、看護の対象としての家族を支援する基盤となる能力を養う。			
<b>授業の概要</b> 現代の家族は、核家族・多世代同居の家族は減少し、日本の全世帯の3分の1は単身世帯である。そのため、親族の相互扶助の絆は細く、もろくなっている。現代家族の特徴を踏まえ、個人を家族や社会から切り離すことなく、家族システム・社会システムの一員とみなし、その関係性やエンパワーメントを支える基盤を学ぶ。家族員を含めた家族全体をケアの対象として位置づけ、主体性を尊重しながら、看護を展開するための基本的知識や援助方法について学んでほしい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 資料に書き込む形で、授業を進行するため、配信資料をプリントアウトするなど各自準備して臨むこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	家族とは・家族のとらえかた	講義	
2	現代家族の問題	講義	
3	家族の心理構造と心理過程	講義	
4	家族関係の心理	講義	
5	家族と援助関係	講義	
6	家族へのアプローチ①	講義・個人ワーク	
7	家族へのアプローチ②	講義・個人ワーク	
8	試験		
<b>テキスト</b> 家族看護学 家族のエンパワーメントを支えるケア メディカ出版			
<b>参考書・指定図書</b> 岡堂哲雄編 家族心理学入門 補訂版 培風館 下夷美幸著 家族問題と家族支援 放送大学教育振興会			
<b>評価の方法</b> 筆記試験45点 課題シート30点 1～5回目の学習シート25点 合算して6割以上を単位修得とする			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります



科目名 生活と健康	授業担当者 三浦 真澄	所属 中通健康クリニック	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
<b>授業の目的</b> 健康に関わる様々な要素を理解し、人々の健康問題と問題解決に向けた支援方法を考える力を養う。			
<b>授業の概要</b> 健康の維持にも、健康の破綻(病気の発症)にも「生活」が深く関わっています。また、健康に関わるモノは個人の要素だけでなく、家族や地域、国、世界の情勢や仕組みなど他にも多くのモノが関わり、影響を受け、また支えられています。健康に関わるモノや人々が抱える健康問題を広い視野で考えていきましょう。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 「健康」・「生活」という言葉を、授業を通してより深く考えてみましょう。人の生・病気・死との関わりが見えてきます。 授業の資料は必要時事前に印刷し準備してください。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	看護が対象とする人々の生活を理解する(個人の視点から)	講義	
2	看護が対象とする人々の生活を理解する(家族の視点から)	講義	
3	看護が対象とする人々の生活を理解する(集団・組織、地域社会、グローバル化の視点から)	講義	
4	性のありかたと健康	講義 グループワーク	
5	健康とは何か	講義	
6	健康行動・健康課題を理解する(理論やモデルを用いて)	講義	
7	健康問題に対するアプローチ方法を理解する	グループワーク	
8	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎 公衆衛生 医学書院 ナーシンググラフィカ 健康と社会・生活 メディカ出版 公衆衛生がみえる 2024-2025 第6版 メディックメディア			
<b>参考書・指定図書</b> 基礎看護学「健康科学概論」ヌーヴェルヒロカワ			
<b>評価の方法</b> レポート課題 30%、筆記試験 50%、出席およびグループワーク等の参加姿勢 20%			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> ヒューマンケアリング		<b>授業担当者</b> 堀 裕美	<b>所属</b> 元中通高等看護学院	
<b>開講時期</b> :前期～中期		<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :15 時間	
<b>授業の目的</b> 人をケアすることの意味を問い、ケアの核となるケアリングについて理解を深める。				
<b>授業の概要</b> ケアリングは看護実践の中核となる概念であり、看護者と対象との関係のあり様を示す重要な概念である。ケアリングの理論について学び、看護の対象を全人的に理解できる豊かな感性を培う。また、臨地実習での自己の実践内容や態度をヒューマンケアリングの視点から振り返り、看護実践におけるケアリングについて考察する。				
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>				
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>		<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	ケアとケアリング、ケアの相互作用		講義	
2	ミルトン・メイヤロフのケアリング論		講義	
3	ジーン・ワトソンのケアリング論		講義	
4	トランスパーソナルケアリング～事例で考える～		講義	
5・6	実習体験からのケアリングの学び		グループ交流 プレゼンテーション	
7・8	ケアリングにおけるケア提供者の資質、対象者との関係のあり方		グループワーク プレゼンテーション	
<b>テキスト</b> ジーン・ワトソン著 稲岡文昭他訳 ワトソン看護論 ヒューマンケアリングの科学 第2版 医学書院				
<b>参考書・指定図書</b> ミルトン・メイヤロフ著 田村真他訳 ケアの本質 生きることの意味 ゆるみ出版				
<b>評価の方法</b> 授業中の課題、授業への参加状況(グループワーク、プレゼンテーション)				

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 人体の構造	授業担当者 板東 良雄	所属 秋田大学大学院医学系研究科 形態解析・器官構造学講座	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 人体を構成する細胞・臓器・器官の名称・構造・機能について、基本的な事項を理解する。			
<b>授業の概要</b> 正常人体の構造(解剖)だけでなく機能(生理)を関連づけて理解し、主要器官・組織の正常構造について講義する。また、各器官がどのように統合的に活動しているのか、様々な疾患はそれらの正常機能が破綻することによって成り立っていることを理解する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> スライドと板書を用いて講義を展開するが、主に解剖学の内容を概説する。各器官系を構成している主な細胞を列挙し、臓器や器官の基本的な構造や機能について説明できるようになることを到達目標とする。ここで学習することのすべてが専門科目を学ぶための基礎知識として必須となるため、試験に合格することが目標ではなく、臨床で実際に使える知識を身につける。講義スピードがかなり速いので、予習・復習を十分に行うことが望まれる。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	看護の土台となる解剖生理学:解剖学的用語を正しく使うことができる。	講義	
2	細胞と組織:細胞と組織の基本的構造を説明できる。	講義	
3	骨格系:骨組織を構成する細胞と骨および関節の基本的構造を説明できる。全身の主な骨と関節を列挙し、その特徴を概説できる。	講義	
4	筋肉系:筋組織を構成する細胞と全身の主な筋を列挙することができる。	講義	
5	筋肉系:筋組織を構成する細胞と全身の主な筋を列挙することができる。	講義	
6	循環器系:心臓および全身の脈管系の基本的構造を概説できる。	講義	
7	呼吸器系:気道および肺の基本構造を概説できる。	講義	
8	消化器系:消化器を構成する臓器・器官の基本構造を概説できる。	講義	
9	泌尿器系:腎臓および泌尿器を構成する基本構造について概説できる。	講義	
10	生殖器系:基本構造と性差による違いを概説できる。	講義	
11	内分泌系:全身の内分泌器官の構造を概説できる。	講義	
12	神経系(1):中枢神経の基本構造を概説できる。	講義	
13	神経系(2):末梢神経(自律神経系と脳神経系)の基本構造を概説できる。	講義	
14	神経系(3):末梢神経(自律神経系と脳神経系)の基本構造を概説できる。	講義	
15	感覚器系:皮膚、視覚器、聴覚器の構造を概説できる。	講義	
	試験(中間試験あり)		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学(メディカ出版)、からだが見える 人体の構造と機能(medic media)、トトラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)、レベル別看護 100 問学校(宣広社)など。概して高価なので、自分に合ったものを選べばよい。			
<b>評価の方法</b> 試験の成績に加え、出席状況を加味して総合的に評価する。			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 人体の機能	<b>授業担当者</b> 板東 良雄	<b>所属</b> 秋田大学大学院医学系研究科 形態解析・器官構造学講座	
<b>開講時期</b> :前期～中期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間	
<b>授業の目的</b> 人体を構成する細胞・臓器・器官の名称・構造・機能について、基本的な事項を理解する。			
<b>授業の概要</b> 正常人体の機能(生理)だけでなく構造(解剖)に関連づけて理解し、主要器官・組織の正常構造について講義する。また、各器官がどのように統合的に活動しているのか、様々な疾患はそれらの正常機能が破綻することによって成り立っていることを理解する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> スライドと板書を用いて講義を展開するが、主に生理学の内容を概説する。各器官系を構成している主な細胞を列挙し、臓器や器官の基本的な構造や機能について説明できるようになることを到達目標とする。ここで学習することのすべてが専門科目を学ぶための基礎知識として必須となるため、試験に合格することが目標ではなく、臨床で実際に使える知識を身につける。講義スピードがかなり速いので、 <u>予習・復習を十分に行うことが望まれる。</u>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	細胞と組織:細胞と組織の機能を説明できる。	講義	
2	骨格系:骨組織を構成する細胞と骨および関節の機能を説明できる。	講義	
3	筋肉系:筋組織を構成する細胞と全身の主な筋の機能を概説できる。	講義	
4	筋肉系:筋組織を構成する細胞と全身の主な筋の機能を概説できる。	講義	
5	血液:血液の構成と機能を概説できる。	講義	
6	循環器系:心臓および全身の脈管系の機能を概説できる。	講義	
7	呼吸器系:気道および肺の機能を概説できる。	講義	
8	消化器系:消化器を構成する臓器・器官の機能を概説できる。	講義	
9	泌尿器系:腎臓および泌尿器を構成する機能について概説できる。	講義	
10	生殖器系:機能と性差による違いを概説できる。	講義	
11	内分泌系:全身の内分泌器官の機能を概説できる。	講義	
12	神経系(1):中枢神経の機能を概説できる。	講義	
13	神経系(2):末梢神経(自律神経系と脳神経系)の機能を概説できる。	講義	
14	神経系(3):末梢神経(自律神経系と脳神経系)の機能を概説できる。	講義	
15	感覚器系:皮膚、視覚器、聴覚器の機能を概説できる。	講義	
	試験(中間試験あり)		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学(メディカ出版)、からだが見える 人体の構造と機能(medic media)、トトラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)、レベル別看護 100 問学校(宣広社)など。概して高価なので、自分に合ったものを選ばよ。			
<b>評価の方法</b> 試験の成績に加え、出席状況を加味して総合的に評価する。			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 生化学	授業担当者 小泉 幸央	所属 秋田大学大学院医学系研究科	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 人体の構成成分である糖質、脂質、タンパク質、核酸の構造と性質について学び、生体内でどのように代謝されているかを学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 生化学は生命現象を分子の挙動として解明することを目的とした学問であり、近年めざましい発展を遂げ、生命現象の最も重要な基礎となっている。本講義では、人体の構成成分である糖質、脂質、タンパク質、核酸についてその構造と性質を学び、またそれらの生体内における生合成や分解といった代謝についても学ぶ。人体を支える基本メカニズムへの理解を深めることにより、将来の看護の実践のための一助になると考える。また、他の科目で得た授業内容との相互理解が大変重要になってくるので、常に生化学的な視点から考える習慣を身につけてほしい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 授業に先立って、教科書内の学習内容範囲を予め目を通し、学習内容をイメージした状態で授業に臨んだ方が理解は深まるでしょう。講義資料は前もって、電子ファイル版を送付するので、これも目を通しておいてください。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	講義生化学の基礎知識	講義	
2	水と無機質	講義	
3	細胞の構造と機能	講義	
4	タンパク質の構造と機能	講義	
5	糖質の構造と機能	講義	
6	脂質の構造と機能	講義	
7	核酸の構造と機能	講義	
8	代謝の基礎と酵素	講義	
9	ビタミンと補酵素	講義	
10	シグナル伝達とホルモン	講義	
11	糖質代謝 I	講義	
12	糖質代謝 II	講義	
13	脂質代謝	講義	
14	タンパク質代謝	講義	
15	遺伝情報	講義	
	試験:選択式、全 50 問出題予定		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎 生化学 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 特になし			
<b>評価の方法</b> 筆記試験と授業の参加度により総合的に評価			

科目名 栄養学	授業担当者 佐藤 美樹	所属 中通総合病院 栄養課	
開講時期:中期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
<b>授業の目的</b> 3大栄養素(炭水化物、タンパク質、脂質)やビタミン・ミネラル類に関する基礎知識とライフステージや各病態に必要な栄養知識を習得する。			
<b>授業の概要</b> 栄養の意義を理解し、その基礎知識や栄養状態の評価方法、個々に必要な栄養と摂取方法を学習する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	人間栄養学と看護、栄養素の種類とはたらき(糖質、脂質)	講義	
2	栄養素の種類とはたらき(タンパク質、ビタミン、ミネラル、食物繊維、水) 食物の消化	講義	
3	栄養素の吸収と代謝・排泄、エネルギー代謝	講義	
4	食事と食品、栄養ケア・マネジメント、栄養状態の評価・判定	講義	
5	ライフステージと栄養	講義	
6	臨床栄養①	講義	
7	臨床栄養②、健康づくりと食生活	講義	
8	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎 栄養学 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学 メディカル出版			
<b>評価の方法</b> 出席・受講態度・筆記試験			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 生命現象のしくみ	授業担当者 石井 照久	所属 秋田大学教育文化学部	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
<b>授業の目的</b> 生命現象の基本単位である細胞の構造と機能を学び、専門分野の基礎を築く。また、生命科学技術の現状を学び、将来医療者としてどのように生命科学技術に向き合えばよいのかを考察する能力を身につける。			
<b>授業の概要</b> 生命現象の基本単位は細胞である。この授業では、まず細胞について学ぶ。さらに全生物共通の生きるシステムである遺伝のしくみ(=セントラルドグマ)について概説する。細胞でない病原体についても説明する。さらには日々進歩している生命科学技術のうち、ES 細胞、iPS 細胞、新型出生前診断、遺伝子検査技術を扱い、これらの技術との向き合い方を考察する。以下は達成目標である。 1. 二種類の細胞(原核細胞と真核細胞)を説明できる。 2. 非細胞性の病原体(ウイルスとプリオン)を説明できる。 3. セントラルドグマ(遺伝のしくみ)を説明できる。 4. 生命科学技術の現状(ES 細胞、iPS 細胞、新型出生前診断、遺伝子検査技術)を説明でき、これらの技術との向き合い方を考察できる。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 各授業のはじめに、可能な限り最新のニュースを紹介します。 関連する回でタバコの害に強く触れます。 教科書の該当する部分を事前学習として読み進めておくこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	細胞としての成立要件(細胞は何をしているか)	講義	
2	原核細胞, 真核細胞	講義	
3	すべての生命現象で共通のセントラルドグマ(遺伝のしくみ)とは何か	講義	
4	ウイルスは何なのか, 病気との関係はどうなのか	講義	
5	プリオンは何なのか, 病気との関係はどうなのか, 世の中にあるもの	講義	
6	セントラルドグマと病気の関係	講義	
7	ES 細胞と iPS 細胞は, 何が同じで何が違うのか	講義	
8	新型出生前診断と遺伝子検査技術とは何か	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎 生化学 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 「図説 生物の世界」三訂版 裳華房 「“生きている”ってどういうこと? 生命のしくみを探る生物学」培風館			
<b>評価の方法</b> 各回の小テスト 5 点×8 回=40 点 期末試験 60 点 合計 100 点満点のうち 60 点以上で合格			

科目名 ナースがみる人体	授業担当者 渡部 絵美	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 人体の構造と機能を、生活行動に関連付けて看護の視点を養う。			
<b>授業の概要</b> 普段意識せずに行っている「食べる」「トイレに行く」「眠る」などの日常生活行動は、人間の生命活動につながる営みであり、すべて人体の構造と機能の上に成り立っている。既習の「人体の構造」「人体の機能」「生化学」などの知識を人間の生活行動に当てはめ、からだがどのように生活行動を成し遂げているのかを学ぶ。 からだのつくりとはたらきのイメージ化(からだの地図帳作成、模型作成、からだに触れる、体験する、測定するなど)や、学び合い学習(生活行動がどのようなからだのつくりとはたらきによって成し遂げられているかグループ学習し、学生が講師となり授業を行う)の手法をとる。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> グループワークでは、事前・事後学習を基にスライド資料や教材資料を作成していく。資料作成のために自己学習した内容や収集した資料等は、全てポートフォリオとして A4 ファイルに綴ること。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	学生授業の大まかな学習目標・授業内容の決定	講義 グループワーク	
2	学習目標・授業内容の明確化、教材検索	グループワーク	
3	授業資料・教材の作成	グループワーク	
4	授業資料・教材の作成	グループワーク	
5	授業資料・教材の作成	グループワーク	
6	授業資料・教材の作成、授業進行の打ち合わせ	グループワーク	
7～14回は順不同(各単元名・内容は学生の意向により変更する場合がある)			
7	「恒常性維持」(血液による物質の流通、神経性調節、液性調節 など)	グループワーク	
8	「息をする」(息を吸う・吐く、ガス交換 など)	グループワーク	
9	「動く」(立つ、歩く、座る、つかむ、つまむ など)	グループワーク	
10	「食事」(食欲、食行動、咀嚼・嚥下、消化・吸収 など)	グループワーク	
11	「排泄」(排尿:尿の生成、尿意、排尿)(排便:便の生成、便意、排便など)	グループワーク	
12	「見る・聞く・話す」(視覚、聴覚、発声、言葉 など)	グループワーク	
13	「入浴」(垢を落とす、温熱作用、静水圧作用、浮力作用 など)	グループワーク	
14	「睡眠」(サーカディアンリズム、睡眠中のからだ、記憶 など)	グループワーク	
15	まとめ	講義	
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア			
<b>参考書・指定図書</b> 菱沼典子著 看護 形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 からだが見える 人体の構造と機能 第1版 メディックメディア			
<b>評価の方法</b> 7～14回目の小テスト:8点×8回分、からだの地図帳:6点、自己学習・グループワークへの参加状況・学生授業の内容:30点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります



科目名 病理学	授業担当者 鈴木 麻弥 塩谷 郁美	所属 秋田大学大学院医学系研究科 分子病態学 腫瘍病態学講座 医員	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> なぜ身体に不調が起こるのか、その不調はどのように経過し、人体にどんな機能的・形態的变化を与えるのかを理解し、実際の医療現場で看護的処置を行う際、「なぜそうするのか」を考えられるようになる。			
<b>授業の概要</b> 病理学とは、病気の“しくみ(成り立ち、経過など)”や“分類・見分け方”について学び、病気の本質を理解するための学問です。 一般的に、病理学は総論と各論に大別されます。この講義では総論を中心に授業を進めます。いろいろな臓器の疾患を「炎症」「循環」「免疫」「代謝」などの大きなカテゴリーに分けて学習し、患者さんの病態全体を把握するための基本的な考え方を身につけましょう。各論の内容も必要に応じて解説していきます。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 記入式の講義資料です。必要な人は印刷して事前に準備すること。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	病理学と病理診断	講義	鈴木
2	細胞の傷害と適応	講義	鈴木
3	炎症と修復(1)	講義	鈴木
4	炎症と修復(2)	講義	鈴木
5	循環と止血(1)	講義	鈴木
6	循環と止血(2)	講義	鈴木
7	体液の異常	講義	鈴木
8	免疫応答の異常(1)	講義	塩谷
9	免疫応答の異常(2)	講義	塩谷
10	感染症	講義	塩谷
11	代謝の異常	講義	塩谷
12	遺伝と先天異常	講義	塩谷
13	腫瘍(1)	講義	塩谷
14	腫瘍(2)	講義	塩谷
15	問題演習と解説	講義	塩谷
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎 病理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 病態生理学 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験(100 点満点)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 検査と治療法概説 I (1) 臨床検査	<b>授業担当者</b> 引地 悠	<b>所属</b> 秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座	
<b>開講時期</b> :中期	<b>単位数</b> :1単位	<b>時間数</b> :30 時間(臨床検査 14 時間)	
<b>授業の目的</b> 基本的な臨床検査の目的と結果解釈を理解するため。			
<b>授業の概要</b> 臨床検査の概要の説明と、国家試験問題の解説を織り交ぜながら進めます。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 事前配布する国家試験問題を予習した上で、主体的に講義に臨みましょう。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	臨床検査の概要・尿検査	講義 グループワーク	
2	血液検査、凝固検査	講義 グループワーク	
3	血液生化学検査	講義 グループワーク	
4	血液型検査、輸血検査	講義 グループワーク	
5	呼吸機能検査	講義 グループワーク	
6	脳波検査・神経伝導速度検査・心電図検査	講義 グループワーク	
7	総まとめ	講義 グループワーク	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 検査と治療法概説 I 100 点満点中の 50 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 検査と治療法概説 I (2) 放射線検査	<b>授業担当者</b> 大山 忠則	<b>所属</b> 中通総合病院 放射線課	
<b>開講時期</b> :中期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(放射線検査 8 時間)	
<b>授業の目的</b> 放射線検査についての基礎的知識を習得する。また、放射線及び放射線検査の特徴を理解する。			
<b>授業の概要</b> 医療において画像診断の必要性、重要性は益々高まっている。しかし、患者さんは放射線やその検査について少なからず不安を抱いている。それは放射線被ばくという問題や、検査の安全性に対する不安などが患者さんの中で納得できないからである。 看護師が、放射線に対する正しい知識をもって過度な放射線不安を克服することは、同じように不安を抱く患者さんへの正しい説明と、より良い看護の提供に繋がる。場合によってはあなた自身が放射線診療従事者の一員となる場合もあることから、検査や治療の特徴をよく理解する。 いつも患者さんの傍にいて患者さんのことを良く知る看護師は患者さんにとって、とても安心できる存在となる。授業で学んだ知識がその一助となることを期待する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 事前資料に各授業で使用する PDF を配信する。教科書と PDF を併用して授業を進めていく。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	X 線診断と看護(一般撮影・CT 検査を中心に)	講義	
2	MRI・超音波と看護	講義	
3	核医学検査・血管撮影、MRと看護	講義	
4	放射線検査の見学と被ばく防護 3 原則の演習	見学・実習	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 検査と治療法概説 I 100 点満点中の 25 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 検査と治療法概説 I (3) 放射線治療	<b>授業担当者</b> 加藤 勇人	<b>所属</b> 中通総合病院 放射線課	
<b>開講時期</b> :中期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(放射線治療 8 時間)	
<b>授業の目的</b> がん治療の 3 本柱の 1 つである放射線治療について学ぶ。また、放射線治療の副作用とその対処について理解する。			
<b>授業の概要</b> 放射線治療を受ける患者の看護に必要な基礎的な知識を得る。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	放射線治療総論(1)	講義	
2	放射線治療総論(2)	講義	
3	放射線治療と看護	講義	
4	放射線治療各論	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 検査と治療法概説 I 100 点満点中の 25 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名化</b> 検査と治療法概説Ⅱ (1) 輸血療法		<b>授業担当者</b> 草薨 美紀子	<b>所属</b> 中通総合病院	
<b>開講時期</b> :中期		<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(輸血療法 4 時間)	
<b>授業の目的</b> 輸血療法について理解を深める。 輸血療法の基礎的知識を習得する。				
<b>授業の概要</b> 輸血療法は臓器移植の一種であり、看護師の知識と一瞬の判断力が要求される。そのため、臨床での役割は大きな意義を持ち、確かな知識と看護能力が求められている。 善意ある輸血を安全に実施するための基礎知識を身につけていただきたい。				
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 輸血療法単独ではなく、手術療法、化学療法と関連付けて学習していただきたい。				
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>	
1	・輸血医療の歴史。善意で得られた血液が医療機関に供給され、患者に投与されるまでの一連の過程を説明する。 ・輸血に関わる法制度と血液製剤の種類と特徴について説明する。	講義		
2	・輸血検査、輸血の実際と看護、輸血の副作用とその対策、自己血輸血についての要点などを説明する。 ・国家試験で過去に輸血関連で出題された問題の解説をする。	講義		
	試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
<b>参考書・指定図書</b>				
<b>評価の方法</b> 筆記試験(穴埋め回答、筆記) 検査と治療法概説Ⅱ 100 点満点中の 10 点				

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 検査と治療法概説Ⅱ (2) 手術療法	<b>授業担当者</b> 進藤 吉明	<b>所属</b> 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> :中期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(手術療法 18 時間)	
<b>授業の目的</b> 化学療法・輸血療法・手術療法および医療機器についての基礎的知識を習得する。			
<b>授業の概要</b> 手術療法での大切なことや流れを理解する。全身管理を行う上で大切なこと(輸液量、ドレーン、尿量など)を理解する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 講義は資料を中心に行います。テキストは各自、該当箇所を事前に読んでおくこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1・2・3	消化器分野と手術についての理解	講義	
4	手術療法の進歩	講義	
5	創傷治療の基礎 麻酔とは？	講義	
6	局所麻酔の特徴	講義	
7	全身麻酔の特徴	講義	
8	生体反応とモニタリング	講義	
9	周手術期合併症と疼痛管理	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 周術期の全身管理 Gakken ナースのためのスキルアップノート 看護の現場ですぐに役立つ術前・術後ケアの基本 秀和システム			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 質問形式のレポート提出(任意)も参考とする。 検査と治療法概説Ⅱ 100 点満点中の 60 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 検査と治療法概説Ⅱ (3) 化学療法	<b>授業担当者</b> 進藤 吉明	<b>所属</b> 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> :後期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(化学療法 8 時間)	
<b>授業の目的</b> 化学療法・輸血療法・手術療法および医療機器についての基礎的知識を習得する。			
<b>授業の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん治療における化学療法の位置づけの理解</li> <li>・がん化学療法の基礎・有害事象の理解</li> <li>・がん化学療法における看護師の役割</li> <li>・がん化学療法の実際</li> </ul>			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 講義は資料を中心にいきます。テキストは各自、該当箇所を事前に読んでおくこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1・2	がん化学療法に関する基礎知識講座	講義	
3	がん化学療法各論	講義	
4	がん化学療法の計画立案、ロールプレイ	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 講師が準備(プリント、中通総合病院作成患者向けパンフレット) 薬がみえる vol.3 メディックメディア			
<b>参考書・指定図書</b> 徹底ガイド がん化学療法とケアQ&A(ナーシングケアQ&A25 NCQA)(総合医学社) 新臨床腫瘍学(日本臨床腫瘍学会編集,南江堂) がん情報サイト( <a href="http://cancerinfo.tri-kobe.org">http://cancerinfo.tri-kobe.org</a> ) 国立がんセンター( <a href="http://ganjoho.ncc.go.jp/pro/index.html">http://ganjoho.ncc.go.jp/pro/index.html</a> ) PDQ 日本語版( <a href="http://mext-cancerinfo.tri-kobe.org/database/pdq/index.html">http://mext-cancerinfo.tri-kobe.org/database/pdq/index.html</a> )			
<b>評価の方法</b> 検査と治療法概説Ⅱ 100 点満点中の 30 点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義終了後のミニテスト</li> <li>・最終講義時のグループ学習</li> <li>・学習到達度確認試験(選択式・記述式)</li> </ul>			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療 I (1) 脳神経		<b>授業担当者</b> 柴田 敬一	<b>所属</b> 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> :中期～後期		<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(脳神経 10 時間)	
<b>授業の目的</b> 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。				
<b>授業の概要</b> 人口の高齢化に伴い、認知症や脳血管障害など脳神経疾患が増加しています。また脳神経の知識は他の分野にも応用できるため、大切な分野です。授業ではスライドを用いて基礎からわかりやすく解説します。また、随時国家試験問題の解説や考え方も講義します。				
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>				
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>	
1	主要な症状と徴候 (意識障害、頭痛、運動麻痺、けいれん)	講義		
2	末梢神経疾患、筋疾患、神経筋接合部疾患 (疾患の病態と診断・治療)	講義		
3	中枢神経疾患①	講義		
4	中枢神経疾患②	講義		
5	脳・神経機能障害のある患者の診療	講義		
	試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 脳・神経 医学書院				
<b>参考書・指定図書</b>				
<b>評価の方法</b> 筆記試験 病態と診療 I 100 点満点中の 30 点				

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります



<b>科目名</b> 病態と診療 I (2) 運動器	<b>授業担当者</b> 鈴木 哲哉 佐々木 香奈	<b>所属</b> 中通総合病院 医局 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> :中期～後期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(運動器 10 時間)	
<b>授業の目的</b> 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護師が果たす役割を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 運動器とは骨や関節・脊髄・末梢神経・筋肉などの総称で、日常生活の中で目的とする動作を実行する器官である。 運動器疾患患者は、人間の動的機能や形態的機能がその器官の損傷や加齢による変化などのために先天的または、後天的に損なわれている状態である。このような運動器疾患患者の主な病態・症状・検査・治療について理解を深め、看護師が果たす役割の理解につながることを期待する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	総論、骨の構造・機能・種類	講義	鈴木
2	骨折の種類と病態・症状・検査・治療	講義	佐々木
3	脊椎の変性疾患・外傷の病態・症状・検査・治療	講義	鈴木
4	関節疾患(関節リウマチ・変形性関節症・痛風・偽痛風など)の病態・症状・検査・治療	講義	佐々木
5	切断、脱臼などの四肢外傷、装具、リハビリテーション、骨軟部腫瘍	講義	鈴木
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 運動器 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 病態と診療 I 100 点満点中の 30 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療 I (3) 女性生殖器		<b>授業担当者</b> 利部 徳子	<b>所属</b> 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> :中期		<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(女性生殖器 8 時間)	
<b>授業の目的</b> 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。				
<b>授業の概要</b> テキストと教材を用い、学生がイメージしやすい授業展開をしたい。				
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>				
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>	
1	女性生殖器の構造と機能	講義		
2	良性腫瘍	講義		
3	悪性腫瘍	講義		
4	機能的疾患	講義		
	試験			
<b>テキスト</b> ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑨ 女性生殖器 メディカ出版				
<b>参考書・指定図書</b>				
<b>評価の方法</b> 筆記試験 病態と診療 I 100 点満点中の 30 点				

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療 I (4) 乳腺		<b>授業担当者</b> 清澤 美乃	<b>所属</b> 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> : 中期		<b>単位数</b> : 1 単位	<b>時間数</b> : 30 時間(乳腺 2 時間)	
<b>授業の目的</b> 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。				
<b>授業の概要</b> 乳癌は、女性の癌としては最も多い病気です。現在では年間約7万人(=11 人に 1 人)が乳癌と診断されています。 ここでは看護者として、乳癌の基本的な病態・症状・検査・治療を理解、習得して下さい。				
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>				
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>		<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	病態:疫学や解剖・生理 症状:腫瘍性病変と非腫瘍性病変について 検査:画像診断や生検など 治療:手術、内分泌療法、化学療法、放射線療法など		講義	
	試験			
<b>テキスト</b> ナーシンググラフィカEX 疾患と看護⑨ 女性生殖器 メディカ出版				
<b>参考書・指定図書</b>				
<b>評価の方法</b> 筆記試験 病態と診療 I 100 点満点中の 10 点				

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療Ⅱ (1) 循環器	<b>授業担当者</b> 五十嵐 知規	<b>所属</b> 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> :中期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(循環器 10 時間)	
<b>授業の目的</b> 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護師が果たす役割を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 本分野は、全身のまさに循環を対象とするものであり、その知識はどのような疾患、患者を対象にするにしても必須のものである。看護における循環管理の重要性を認識し、その知識を確固たるものとしていただきたく、本授業を行う。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> テキストに沿って授業を行う。ただし、テキストに載っていないが、病態などの理解のうえで重要な事項についての講義を重点的に行うので、テキストの内容の予習、復習は各自でも十分に行っていただきたい。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	先天性心疾患 心臓弁膜症	講義	
2	動脈系疾患、静脈系疾患 虚血性心疾患	講義	
3	血圧異常 心筋疾患	講義	
4	心不全 心臓カテーテル検査、カテーテル治療	講義	
5	不整脈 その他	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 循環器 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 病態と診療Ⅱ 150 点満点中の 50 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療Ⅱ (2) 呼吸器	<b>授業担当者</b> 三船 大樹	<b>所属</b> 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> :中期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(呼吸器 10 時間)	
<b>授業の目的</b> 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 「息を吹き返す」「息を引き取る」などの表現からも理解されるように、呼吸は生命活動の根源です。呼吸器疾患は生命の危機に直結しやすく、かつその症状は、息切れや咳、胸痛、血痰など、日常生活に大きな影響を引き起こします。看護者が果たす役割を身につけるため、呼吸器の構造と生理、代表的な呼吸器疾患の基本的な知識を習得してください。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。テキストに準じた資料を配布します。この資料をもとに試験を作成しますので、試験前の復習に利用してください。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	第1章 呼吸器の看護を学ぶにあたって 第2章 呼吸器の構造と機能	講義	
2	第2章 呼吸器の構造と機能	講義	
3	第3章 症状とその病態生理 第4章 検査と治療・処置	講義	
4	第5章 疾患の理解	講義	
5	第5章 疾患の理解	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 呼吸器 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 病態と診療Ⅱ 150 点満点中の 50 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療Ⅱ (3) 腎・泌尿器	<b>授業担当者</b> 藤原 崇史	<b>所属</b> 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> :中期～後期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(腎・泌尿器 10 時間)	
<b>授業の目的</b> 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護師が果たす役割を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 主要な腎疾患、泌尿器科疾患の病態生理が理解できるように授業を進める。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> テキストに沿って授業を行うので、予備知識としてあらかじめ目を通して欲しい。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	腎疾患を学ぶための基礎知識 泌尿器疾患を学ぶための基礎知識	講義	
2	腎臓内科で行われる検査と看護 泌尿器科で行われる検査・治療・処置と看護	講義	
3	腎臓の疾患と看護	講義	
4	透析療法と腎移植	講義	
5	泌尿器科の疾患と看護	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 腎・泌尿器 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験(選択式、記述式の両方を予定) 病態と診療Ⅱ 150 点満点中の 50 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療Ⅲ (1) 消化器	<b>授業担当者</b> 進藤 吉明	<b>所属</b> 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> :中期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(消化器 10 時間)	
<b>授業の目的</b> 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> テキストに従ってポイントをおさえて進めていく。 消化器疾患についての理解、検査法、治療法を学ぶ。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 病気がみえる(テキスト)を中心に講義を行っていく。(視覚で覚える) 学校指定のテキストを各自読み込んでもらう。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	食道 胃	講義	
2	胃 十二指腸	講義	
3	小腸 大腸	講義	
4	肝臓	講義	
5	胆道系 膵臓 その他	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 病気がみえる vol.1 消化器 第5版 メディックメディア			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 試験、授業中の演習(口述も含む) 病態と診療Ⅲ 100 点満点中の 40 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療Ⅲ(2) 内分泌・代謝	<b>授業担当者</b> 松田 大輔	<b>所属</b> 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> :中期～後期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間 (内分泌・代謝 8 時間)	
<b>授業の目的</b> 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護師が果たす役割を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 一般的な講義を 1 時間行う。 理解を深めるために看護師国家試験問題を使用してミニテストを行い解説を行う。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	内分泌・代謝器官の構造と機能についてその仕組みが分かるように説明するとともに、内分泌代謝疾患に必要な検査について説明し理解する。	講義	
2	代表的な代謝疾患として糖尿病を取り上げ、その疾患概念、治療方法、合併症について説明し理解する。	講義	
3	代表的な内分泌疾患として甲状腺疾患を取り上げ、その疾患概念、治療方法、合併症について説明し理解する。	講義	
4	その他の内分泌代謝疾患について最小限必要な知識を整理する。	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 内分泌・代謝 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 日本糖尿病学会編 糖尿病治療の手引き 南江堂			
<b>評価の方法</b> 筆記試験(看護師国家試験問題など) 病態と診療Ⅲ 100 点満点中の 30 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります



<b>科目名</b> 病態と診療Ⅲ (3) 血液・造血器・感染症、アレルギー・膠原病	<b>授業担当者</b> 奥山 慎 藤原 崇史	<b>所属</b> 中通総合病院 医局 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> :中期～後期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(血液・造血器・感染症 8 時間、アレルギー・膠原病 4 時間)	
<b>授業の目的</b> 1. 全ての医療従事者が避けて通れない感染症。医療のプロフェッショナルを目指す皆さんに、必要な知識と必要な行動を学んでいただく。 2. 血液疾患の概要を理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。 3. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 日常の看護実践の中で比較的多く接する疾患の理解を深めることを主眼として、以下の疾患を中心に説明する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 内容が広範囲にわたるため、事前に資料を予習してください。(奥山先生) テキストに沿って授業を行うので、予備知識としてあらかじめ目を通しておいて欲しい。(藤原先生)			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	感染症の基本、症状、検査、治療 ・感染症とは何か ・感染症を構成する要素 ・感染症の経路 ・感染症法 ・感染症の症状:発熱、倦怠感、敗血症性ショック ・検査:培養をとる(グラム染色、血液培養、尿培養、痰培養)、血清検査、PCR 検査、画像検査 ・治療:抗菌薬とその乱用	講義	奥山
2	話題の感染症、予防接種、職業感染対策 ・新型コロナウイルス感染症 ・結核と空気感染 ・耐性菌:MRSA、ESBL 産生菌、多剤耐性緑膿菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 ・感染制御 ・針刺し ・予防接種	講義	奥山
3	血液の基本と貧血 ・赤血球、白血球、血小板の役割と造血 ・赤血球の異常:多血症と貧血(鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、二次性貧血) ・血小板の異常:本態性血小板血症、特発性血小板減少性紫斑病、DIC	講義	奥山
4	血液悪性腫瘍と癌化学療法 ・白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群 ・癌化学療法の概要と必要な看護 ・造血幹細胞移植 ・ HLA と骨髄バンク	講義	奥山
5	アレルギー反応とその機序 アレルギー疾患の病態	講義	藤原
6	膠原病の病態	講義	藤原
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 病態と診療Ⅲ 100 点満点中、感染症 10 点、血液・造血器疾患 10 点、アレルギー・膠原病 10 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 薬理学	授業担当者 佐々木 修	所属 中通総合病院 薬剤部	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 疾病ごとに使用される薬物の分類と作用機序、薬理作用・有害作用および管理について理解する。			
<b>授業の概要</b> 1. 臨床で使用される薬剤を適正に管理できる知識を獲得する。 2. 疾病とそれに対して使用される薬物の作用機序及び有害作用を理解し、臨床での患者管理に活かせる能力を身につける。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 受講態度の基本として、私語等で他の学生に迷惑をかけること。授業中に大事なポイントを示すので注視すること。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	薬理学総論①	講義	
2	薬理学総論②	講義	
3	抹消神経系疾患に作用する薬物①	講義	
4	抹消神経系疾患に作用する薬物②	講義	
5	中枢神経系疾患に使用する薬物①	講義	
6	中枢神経系疾患に使用する薬物②	講義	
7	循環器系疾患に使用する薬物①	講義	
8	循環器系疾患に使用する薬物②	講義	
9	抗炎症薬、抗アレルギー薬、免疫治療薬	講義	
10	呼吸器、消化器系疾患に使用する薬物	講義	
11	がん・痛みに使用する薬物	講義	
12	生殖器・泌尿器系、感覚器疾患に使用する薬物	講義	
13	物質代謝に作用する薬物	講義	
14	感染症に使用する薬物、消毒薬	講義	
15	その他、まとめ	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎 薬理学 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 微生物学	授業担当者 引地 悠	所属 秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> ヒトに感染症を引き起こす微生物について、基本的な知識を身につけること。 感染症の疫学、症状、検査、治療、予防についても知識を拓げること。			
<b>授業の概要</b> 頻度や重症度の高い細菌、ウイルスの講義を重点的に行う。 免疫学や感染予防についても学びを深める。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 講義のテーマに基づく質問作りのグループワークを行います。 各自、質問に対する答えを調べる予習を行い、講義に臨みましょう。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	微生物学概論	講義 グループワーク	
2	細菌Ⅰ グラム陽性球菌	講義 グループワーク	
3	細菌Ⅱ グラム陰性桿菌	講義 グループワーク	
4	細菌Ⅲ グラム陽性桿菌	講義 グループワーク	
5	細菌Ⅳ その他の細菌	講義 グループワーク	
6	ウイルスⅠ 皮膚症状をきたすウイルス	講義 グループワーク	
7	ウイルスⅡ 気道、神経、胃腸症状をきたすウイルス	講義 グループワーク	
8	ウイルスⅢ 肝炎ウイルス	講義 グループワーク	
9	ウイルスⅣ HIV	講義 グループワーク	
10	真菌と原虫	講義 グループワーク	
11	免疫Ⅰ 自然免疫と獲得免疫・アレルギー	講義 グループワーク	
12	免疫Ⅱ ワクチン	講義 グループワーク	
13	免疫Ⅲ 感染症の学び方	講義 グループワーク	
14	滅菌と消毒	講義 グループワーク	
15	総まとめ	講義 グループワーク	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎 微生物学 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験、夏休み課題レポート			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 基礎看護学概論	授業担当者 佐々木 聖子 近江 薫	所属 中通高等看護学院 中通高等看護学院	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 看護師を目指す者にとって基盤となる「看護とは何か」「看護が果たす役割はなにか」について学び、考えを深める。			
<b>授業の概要</b> 入学したての学生の看護に対するイメージは漠然としている。そこで、看護が実際にどのような役割、責任を担っているのかを理解し、これから看護学を学ぶものとして心構えを築く授業としたい。また、看護理論と実践の関係について学ぶことで、看護学の奥深さを感じてほしい。進行・内容はテキスト通りではないので、テキストは授業の補助として使用する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。 資料は必要時印刷して事前に準備すること。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1・2	第1章:看護とは …看護の本質 基本的役割 看護の継続性 課題レポートの提示「看護の基本となるもの」	講義	近江
3	第2章:看護の対象の理解 …人間の理解・ストレスと適応	講義	近江
4	第2章:看護の対象の理解 …ライフサイクルと健康	講義	近江
5・6・7	第1章:看護とは 看護実践に生かす看護理論 19 使用 ナイチンゲール・ヘンダーソン・オレム・トラベルビー 他 課題レポートの提示「看護とは～私の考える看護」	講義	近江
8	第3章:国民の健康状態と生活 …健康のとらえ方 国民の健康状態	講義	佐々木
9・10	第4章:看護の提供者 …看護の変遷 看護のあり方 看護職の資格 養成制度 就業状況	講義	佐々木
11・12 13・14	第5章:看護における倫理 看護実践における倫理 倫理的課題への対応 事例検討	講義	佐々木
15	看護とは:課題レポート「看護とは～私の考える看護」の共有	交流会	佐々木
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 看護学概論 医学書院 ヴァージニア・ヘンダーソン著 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 城ヶ端初子監修 看護実践に生かす看護理論 19 サイオ出版			
<b>参考書・指定図書</b> ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 70 点と課題レポート 30 点の合計点で評価する			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 看護リフレクションⅠ	授業担当者 大塚 紀子 他	所属 中通高等看護学院	
開講時期: 前期～後期	単位数: 1 単位	時間数: 30 時間	
<b>授業の目的</b> 看護リフレクションとは何かを理解し、リフレクティブサイクルに沿って、経験から学ぶための振り返り思考のプロセスを学ぶ			
<b>授業の概要</b> 看護におけるリフレクションは、日々の看護実践の中で行われる暗黙知や技を可視化・言語化するプロセスである。リフレクションを学ぶことは、看護実践の質を向上させ、看護専門職として成長し続けていくための有用なスキルである。本科目は、このスキルについて理論を学び、技術演習の場面をリフレクションする。年間通して行うことで、リフレクティブな思考を養いたい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 3～15 回目は、演習またはシミュレーション演習後の個人・グループワークでは、ワークシートを使ってリフレクションする。(順不同) 具体的に演習の場面を想起し、グループメンバーと十分にディスカッションして欲しい。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	看護リフレクションとは	講義	大塚
2	ワークを通して学ぶ看護リフレクションとは	講義・個人ワーク	大塚
3	日常生活援助論Ⅰ:環境整備とリネン交換	グループワーク	工藤
4	日常生活援助論Ⅱ:背部清拭・寝衣交換	グループワーク	渡部(絵)
5	共通技術論Ⅱ:安全な移乗・移送と環境整備	グループワーク	齊藤
6	共通技術論Ⅱ:安全な移乗・移送と環境整備	グループワーク	齊藤
7	日常生活援助論Ⅱ:浣腸実施後のおむつ交換および陰部洗浄	グループワーク	渡部(絵)
8	日常生活援助論Ⅰ:座位姿勢保持ができない患者の食事介助	グループワーク	工藤
9	共通技術論Ⅰ:コミュニケーション・フィジカルアセスメント	グループワーク	小田嶋
10	共通技術論Ⅰ:コミュニケーション・フィジカルアセスメント	グループワーク	小田嶋
11	診療・検査時の援助論:酸素療法および安全な吸引の実際	グループワーク	清水
12	診療・検査時の援助論:酸素療法および安全な吸引の実際	グループワーク	清水
13	治療・処置時の援助論:筋肉注射・皮下注射・皮内注射の実際	グループワーク	秋山
14	治療・処置時の援助論:点滴静脈内注射時の観察	グループワーク	秋山
15	臨床看護総論:一次救命処置の実際	グループワーク	渡部(暢)
	試験		
<b>テキスト</b> 田村由美／池西悦子著 看護の教育・実践にいかすリフレクション 一豊かな看護を拓く鍵一 南江堂			
<b>参考書・指定図書</b> 東めぐみ 著 看護リフレクション入門 ライフサポート社 田村由美／池西悦子著 看護のためのリフレクションスキルトレーニング 看護の科学社			
<b>評価の方法</b> 筆記試験(30 点) ワークシートの提出及びリフレクションアセスメント指標を用いた評価(70 点)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 共通技術論 I	授業担当者 小田嶋 陽子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 対象理解と看護実践の基礎となる共通技術を習得する。			
<b>授業の概要</b> 「看護技術とは何か」を学び、看護実践と看護技術のつながりについて熟考する。対象を把握するためには、人間関係の成立、情報収集・分析(評価)が必要である。看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションの技術を学ぶ。また、身体的側面の情報収集・評価の手段であるフィジカルアセスメント、バイタルサイン測定の技術を学ぶ。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> ラーニングポータルにアップされている資料を準備し臨むこと。 演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	看護技術とは何かアートとサイエンスの側面から考える	講義	
2	コミュニケーションの概念・原理、コミュニケーションの構造とプロセス	講義	
3	看護場面での効果的なコミュニケーション技術	講義	
4	コミュニケーションにおける対象の理解	演習	
5	コミュニケーションの実践	演習	
6	フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション	講義	
7	フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション	演習	
8	バイタルサイン	講義	
9	バイタルサインの観察と測定方法①	講義・演習	
10	バイタルサインの観察と測定方法②	演習	
11	体温調節の技術	講義	
12	バイタルサイン測定【技術試験】、電法【演習】	演習	
13	バイタルサイン測定【技術試験】、電法【演習】	演習	
14	コミュニケーション、フィジカルアセスメント	シミュレーション演習	
15	コミュニケーション、フィジカルアセスメント	シミュレーション演習	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 基礎看護技術 I 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア			
<b>参考書・指定図書</b> ブックライブラリー 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント 医学書院			
<b>評価の方法</b> 筆記試験・技術試験			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 共通技術論Ⅱ	授業担当者 齊藤 豊子 齊藤 由美子	所属 中通高等看護学院 中通総合病院	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 対象理解と看護実践の基礎となる技術を習得する。			
<b>授業の概要</b> 安全を脅かす要因を排除し患者の安全を守ること、感染予防や患者の活動支援は病気や障害の有無に関わらず、あらゆる対象に日常的に行われている援助である。それらの基本的な看護技術の知識と技術を習得しつつ、患者の立場に立って援助することの大切さを考えながら学んで欲しい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。提示された事前課題について学習し、教授された技術は練習し、演習に臨むこと。必要時資料は印刷し事前に準備すること。演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	安全確保の技術①	講義	齊藤豊子
2	安全確保の技術②	講義	齊藤豊子
3	看護記録と報告	講義	齊藤豊子
4	基本的活動の援助① ～活動の意義とアセスメント～	講義	齊藤豊子
5	基本的活動の援助② ～ボディメカニクスと移動～	講義	齊藤豊子
6	基本的活動の援助③ ～体位変換 ポジショニング 関節可動域訓練～	講義	齊藤豊子
7	感染予防の意義、スタンダードプリコーション、滅菌と消毒の方法	講義	齊藤由美子
8	手洗いの方法、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い	講義	齊藤由美子
9・10	感染予防の実際	演習	齊藤由美子
11	体位変換の実技演習(水平移動・側臥位・座位・ポジショニング)	演習	齊藤豊子
12・13	移乗・移動の実際 ～車椅子移送・ストレッチャーへの移乗・移送、歩行介助、自動・他動運動～	演習	齊藤豊子
14・15	安全な移乗・移送と環境整備 (患者の状況に合った移乗・移送方法と安全に配慮した環境整備を考える)	シミュレーション 演習	齊藤豊子
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア			
<b>評価の方法</b> 筆記試験、授業態度およびレポートの取り組み状況から総合的に評価する (100点満点中、安全・活動=75点、感染予防=25点)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目 共通技術論Ⅲ	授業担当者 中川 郁子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期～後期	単位数:1単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 対象理解と看護実践の基礎となる技術を習得する。			
<b>授業の概要</b> 看護過程は、目標に向かって効果的かつ効率よくケアを行うための組織的・系統的な方法であり、問題解決的なプロセスである。ケアの質を高めるためにも重要な技術である。講義で基本的な考え方を理解した後、ペーパーシミュレーションで演習に取り組む。グループワークを通し理解を深め、看護過程用紙に整理する。また、看護実践能力の一部として、人々の健康に関わる学習を支援する看護技術について学ぶ。対象者の思いを想像しながら、学習支援をするための計画立案、印刷教材の作成をし、実際に指導する演習を通し支援方法の理解を深める。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書等を予め確認し、授業内容に関してイメージできていることが望ましい。提示された事前課題について学習し授業に臨むこと。必要時資料は印刷し、準備すること。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	看護過程の意義、看護過程の構成要素	講義	
2	アセスメント(情報収集、整理)看護診断	講義	
3	計画立案・実施・評価の仕方	講義	
4・5	情報の分析・解釈	講義	
6	看護過程演習 ペーパーシミュレーション(グループワーク)	演習	
7	病態理解	講義	
8・9・10	看護過程演習 ペーパーシミュレーション(グループワーク)	演習	
11	看護過程演習 ペーパーシミュレーション(発表・交流)	演習	
12	学習支援活動の基礎技術 学習支援	講義	
13	学習支援するための指導計画の立案(事例提示)	演習	
14・15	教育・指導の実際:指導計画と印刷教材の発表会	演習	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ブックライブラリー 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図 医学書院 ブックライブラリー 緊急度・重症度からみた症状別看護過程＋病態関連図 医学書院 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験、授業態度、提出物を総合して評価する。			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります



科目名 日常生活援助論Ⅰ	授業担当者 工藤 洋平	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する。			
<b>授業の概要</b> 日常生活における環境、休息・睡眠、安楽の意義を理解したうえで、快適な療養生活を送るための援助の実際を学ぶ。また、食事は生命維持のためには欠かすことのできない生理的・基本的欲求である。食事・栄養の意義を理解し、健康障害によりこの基本的欲求が満たせなくなった場合の援助の実際を学ぶ。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> テキストや Learning Bowl に挙げた授業資料、ブックライブラリー、ビデオライブラリー等をあらかじめ見て、事前学習し、学習する内容に関してイメージして講義を受講することが望ましい。 演習の前は、技術ノートの作成や事前学習、技術練習を必ず行って演習に臨むこと。 授業の資料は事前に印刷し準備する。 演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	環境調整の援助の実際(ベッドメイキング・リネン交換) シーツ類のたたみ方・リネン交換	講義 ミニ演習	実習室
2	病床の環境/病床の環境整備	講義	
3・4	環境整備とリネン交換	シミュレーション 演習	
5	睡眠・休息の援助	講義	
6	苦痛の緩和・安楽確保の技術/包帯法	講義	
7・8	足浴/包帯法	演習	
9	食事援助の基礎知識	講義	
10	食事摂取の介助	講義	
11・12	食事介助	シミュレーション 演習	
13	非経口的栄養摂取の援助	講義	
14・15	経鼻カテーテル挿入・流動食注入の実際(モデル人形での演習)	演習	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア			
<b>評価の方法</b> 授業態度・課題・演習・シミュレーションでの取り組み状況・筆記試験から総合的に評価する。			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 日常生活援助論Ⅱ	授業担当者 渡部 絵美	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する。			
<b>授業の概要</b> 疾病の予防や回復・健康増進のためには、快適な環境が必要である。快適な環境は、患者の病状の安定、治療効果の発揮、闘病意欲の向上の面から極めて重要である。人間にとっての清潔の意義と衣服の意義を学ぶ。また、疾病や障害、加齢、治療上の制約などにより、自身で身体の清潔を保つことが困難な状況にある方たちへの援助方法を学ぶ。健康障害により、基本的欲求が満たせなくなることも多い。排泄の介助は、対象にとって羞恥心を伴うものであり、自立と個別性を重視する技術である。演習を通し、対象の心理を考え患者の立場に立った細かな配慮ができるようになってほしい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 各講義を受ける前に、Learning Bowlに挙げている技術動画を視聴してから臨むこと。 演習に参加するためには事前に技術ノートを作成し、必ず技術練習をしてから臨むこと。 演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	身体の清潔を援助する技術（清拭・更衣）	講義	
2	身体の清潔を援助する技術（洗髪・口腔ケア）	講義	
3	清拭・更衣	シミュレーション演習	
4	清拭・更衣	シミュレーション演習	
5	洗髪・口腔ケアの実際	演習	
6	洗髪・口腔ケアの実際	演習	
7	排泄を促す技術	講義	
8	浣腸の意義	講義	
9	浣腸・摘便の実際	演習	
10	浣腸・摘便の実際	演習	
11	陰部洗浄・オムツ交換	シミュレーション演	
12	陰部洗浄・オムツ交換	シミュレーション演	
13	導尿の意義・管理	講義	
14	持続的導尿の実際	演習	
15	持続的導尿の実際	演習	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 ブックライブラリー 導尿・浣腸・敵便ができる 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア			
<b>評価の方法</b> 筆記試験、提出物、演習態度、技術習得の状況を総合して評価する。			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 診療・検査時の援助論	<b>授業担当者</b> 清水 有香 西方 展子	<b>所属</b> 中通高等看護学院 中通総合病院	
<b>開講時期</b> :前期～中期	<b>単位数</b> :1単位	<b>時間数</b> 30 時間	
<b>授業の目的</b> 対象の理解と看護実践の基盤となる技術を習得する。			
<b>授業の概要</b> この授業では、診療・検査に伴う基本的な看護技術について学ぶ。ここで学ぶ看護技術は、患者の侵襲を伴うものも含まれる。 診療・検査の意義・内容及び患者の身体的・心理的問題を理解し、診療・検査時の看護師の役割と援助方法について学習する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。また、提示された資料に基づき事前自己学習し、必要時資料は印刷して事前に準備すること。演習では、患者への対応を想定して実践するため、事前学習や練習をして臨むこと。演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	創傷管理 ① 創傷治癒過程 創の消毒と創洗浄 テープの貼り方剥がし方	講義	西方
2	創傷管理 ② ドレッシング剤 褥創とは 褥創予防	講義	西方
3	診療に伴う技術 フィジカル・イグザミネーション、呼吸の生理的メカニズム	講義	清水
4	呼吸を楽にする技術 排痰法・吸入	講義	清水
5	吸引・酸素療法	講義	清水
6・7	吸入・酸素療法の手技 演習	演習	清水
8・9	酸素療法・吸引の実際	シミュレーション 演習	清水
10	検査の意義・援助 身体計測	講義	清水
11・12	身体計測・尿検体の取り扱い・簡易血糖測定 演習	演習	清水
13	検査の援助・穿刺法・採血	講義	清水
14・15	血液検査と採血 演習	演習	清水
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア ブックライブラリー 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア			
<b>評価の方法</b> 創傷管理(西方)15点配点の筆記試験、他(清水)85点配点の筆記試験(60点)及び演習課題(20点)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 治療・処置時の援助論	授業担当者 秋山 祥子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 治療として行われる頻度の高い薬物療法時の看護師の役割や基本的な看護技術を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> この科目では、看護師の役割の一つである「診療の補助」の中の薬物療法時の看護の基礎となる知識や根拠を学習する。また机上の学習だけではなく、数多くの演習を通し基本的な技術を身につける。演習はモデル人形を使用するが、誤ると医療事故につながる技術であることを認識し、正しい知識と技術を身につけてほしい。さらに、演習では薬物療法を受ける対象の心理を捉えた対応や説明を考える場としたい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 演習時、基本的にはデモンストレーションは行いません。事前学習や動画の視聴をしたうえで演習に臨んでください。また、本科目の演習は、清潔操作や無菌操作を多用します。演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	与薬の基礎知識① 薬物療法における看護師の役割	講義	
2	与薬の基礎知識② 各与薬の援助方法 経口薬の投与の実際	講義 ミニ演習	
3	与薬の基礎知識③ 経皮・外用薬・坐薬の投与	演習	
4	与薬の基礎知識④ 誤薬・穿刺事故予防 薬液、注射器の取り扱いの理解と実際	講義 ミニ演習	
5	与薬の基礎知識⑤ 筋肉内注射・皮下注射・皮内注射	講義	
6・7	筋肉内注射・皮下注射の実際	演習	
8	与薬の基礎知識⑥ 静脈内注射・点滴静脈内注射	講義	
9	与薬の基礎知識⑦ 輸液の管理、輸液ポンプの取り扱い 輸血の実施方法	講義	
10	輸液の準備、輸液セットの取り扱い、輸液ポンプの取り扱いの実際	演習	
11・12 13	点滴静脈内注射の実際	演習	
14・15	点滴静脈内注射時の観察	シミュレーション 演習	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅰ 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院			
<b>評価の方法</b> 各種レポート(計20点) 筆記試験(80点) 合計100点で評価します。			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 臨床看護総論 (1) 救急他	授業担当者 渡部 暢子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間(救急他 18 時間)	
<b>授業の目的</b> 1. 看護の活動の場および機会について理解する。 2. 健康上のニーズや健康上の経過(健康レベル)に応じた看護について理解する。 3. 救急蘇生法について理解する。			
<b>授業の概要</b> 看護活動の場および機会を学ぶことで、臨床看護のイメージをつかむところから始める。看護の基本として、多様な健康上のニーズを持つあらゆる健康レベルにある人々に、基本的な看護の知識や技術を統合し応用するプロセスを学ぶ。健康上のニーズについて、自分や家族にあてはめて理解を深める。また、各健康レベルの特徴と急性期・回復期・慢性期にある対象の看護について、事例を通して学ぶ。 一次救命処置の技術習得を目指し、演習・技術試験を行う。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 以下の5つの目標をもとに進める。技術試験にむけて授業の予習・復習をして臨んでほしい。演習においては身だしなみを整え臨むこと。 目標1. 看護活動の場、チーム医療の機会を学ぶことで、臨床看護のイメージをつかむ。 目標2. 健康上のニーズに応じた看護の役割がわかる。 目標3. 各健康レベルの特徴と看護の役割がわかる。 目標4. 治療の種類と方法、それぞれの治療における看護の要点がわかる。 目標5. 一次救命処置の方法がわかり、シミュレータに実施できる。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	看護活動の領域と場 健康上のニーズをもつ対象の看護	講義	
2・3・4	健康状態の経過(健康レベル)と看護	講義	
5	治療の種類・方法と看護	講義	
6	救急蘇生法	講義	
7・8	一次救命処置	演習・技術試験	
9	一次救命処置の実際	シミュレーション演習	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統別看護講座 専門 臨床看護総論 医学書院 系統別看護講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 臨床看護総論 100 点満点中の 55 点。筆記試験(45 点)、一次救命処置技術試験(10 点)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 臨床看護総論 (2) 終末期看護	<b>授業担当者</b> 北林 奈美子	<b>所属</b> 中通総合病院 緩和ケアチーム 相談支援センター	
<b>開講時期</b> :中期～後期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(終末期看護 8 時間)	
<b>授業の目的</b> 終末期にある患者と家族の特徴と終末期看護の役割を習得する			
<b>授業の概要</b> 私たち医療者は終末期にある患者と家族が抱える様々な苦悩に寄り添い、和らぐように支援することが求められている。この講義では終末期患者と家族の抱える苦悩や尊厳ある死を迎えることの大切さ、看護師に必要な知識や援助技術について学びを深めてもらいたい。また、これまで関わった事例を紹介し、終末期看護のイメージを持つこと、終末期における看護師の役割を習得し、看護学生の死生観が培われるように授業を進める。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 授業に臨む姿勢(居眠り、授業と関連がない行動などが認められた場合は評価に反映)は心掛けること 講義資料は事前に印刷し、準備すること			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	緩和ケアとは(緩和ケアの歴史と現状) 終末期患者とその家族の特徴(全人的苦痛について) 当院の緩和ケアチーム、がん相談支援センター、緩和ケア認定看護師の役割	講義	
2	身体症状のアセスメントと看護(がん性疼痛、呼吸困難)	講義	
3	緩和ケアにおけるコミュニケーション(グループワーク形式予定)	講義 グループワーク	
4	死の受容過程の理解と援助、家族ケア 臨死期のケア(エンゼルケアの目的と意義、援助技術)	講義・動画視聴	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験、授業態度および演習での取り組み状況を総合的に評価する。 臨床看護総論 100 点満点中の 30 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 臨床看護総論 (3) 化学療法看護	<b>授業担当者</b> 嵯峨 千春	<b>所属</b> 中通総合病院 化学療法室	
<b>開講時期</b> :中期～後期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(化学療法 4 時間)	
<b>授業の目的</b> 1. 化学療法の特徴・目的・副作用を理解する 2. 化学療法を受ける患者の看護援助を理解する			
<b>授業の概要</b> がん患者は様々な苦痛を経験する。その中で、治療期である化学療法を受ける患者の身体的・心理的・社会的苦痛を事例を通して説明するので、理解に努め、看護援助を学んでほしい。化学療法は日進月歩で日々新しい薬剤やレジメンが開発されている。最新のピクスを交えて化学療法の特徴や目的を講義していきたい。また、化学療法患者におけるセルフケアの重要性を理解してほしい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 検査と治療法概説の化学療法の講義を受けていれば、復習し授業に臨むこと。またテキスト内の慢性期の患者のニーズを事前に予習してください。必要時、事前に資料を印刷し準備すること。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	化学療法の特徴と目的、有害反応について	講義	
2	化学療法に伴う苦痛への看護援助	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 臨床看護総論 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 臨床看護総論 100 点中 15 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 臨床判断	授業担当者 工藤 洋平	所属 中通高等看護学院	
開講時期:後期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
<b>授業の目的</b> 看護師のように考えることをめざし、看護師が臨床で「気づき」「解釈」し、実践につなげていく思考過程を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 電子カルテからの情報収集のしかたを模擬演習し、看護過程用紙に情報を整理しながら、ペーパーシミュレーションで看護計画を立案する。看護過程は、情報収集を網羅的・系統的に進め看護診断するものであり、臨床推論の思考形式でいうと系統的アセスメントの方法を学ぶことができる。グループワークを通し理解を深める。 また、実習での受け持ち患者を想定し、シミュレーション演習を行うことにより、臨床判断の「気づき」「解釈」「反応」「省察」のプロセスを学ぶ。これは、患者の今に対応したアセスメントになる。 状況に応じて、看護師であれば何に気づき、どのように判断し行動するのか、看護師のように考え実践できるようになるための思考過程を学ぶ。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 共通技術論Ⅲで行った看護過程を復習し、Learning Bowlに挙げた資料等をあらかじめ見て、事前学習し、学習する内容に関してイメージして講義を受講することが望ましい。 Learning Bowlに挙げた授業資料は事前に印刷し、準備する。演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	臨床判断とは(講義)、事例紹介、電子カルテからの情報収集	講義	
2	臨床判断の「気づき」トレーニング(グループワーク)	演習	
3	看護過程演習:情報整理、病態理解、関連図(グループワーク)	演習	
4	看護過程演習:情報の解釈、アセスメント(グループワーク)	演習	
5	看護過程演習:看護診断、看護目標、具体的解決策(グループワーク)	演習	
6・7	臨床判断シミュレーション演習 ※待機グループは、看護過程演習:看護計画の仕上げ(グループワーク)	シミュレーション演習 演習	
8	看護過程演習 交流会	演習	
<b>テキスト</b> ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎:臨床看護技術 医学書院 ブックライブラリー 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント 医学書院 ブックライブラリー フィジカルアセスメントの根拠がわかる!機能障害からみたからだのメカニズム 医学書院 ブックライブラリー 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 医学書院 ブックライブラリー 緊急度・重症度からみた症状別看護過程 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 気づきトレーニング 10 点、臨床判断シミュレーション演習 20 点、看護過程演習 70 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります



科目名 地域の理解	授業担当者 森合 真由美 清水 有香	所属 秋田県看護協会 中通高等看護学院	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 人々の生活の場としての「地域」を理解するとともに、地域で生活を営む人々の健康を支援するための基礎的な考え方や方法を理解できる。			
<b>授業の概要</b> <b>「地域の理解」のねらいは次のとおり</b> 1. 地域や暮らしについて学び、人々の健康とのつながりを理解することができる。 2. 地域・在宅看護の視点から、自分が住む地域を知り、地域の特徴や多様性に気づくことができる。 3. 社会環境の変遷に伴う人々の暮らしや健康状態の変化を踏まえ、地域・在宅看護の役割や意義を理解することができる。 4. 私達の地域とそこに暮らす人々を理解し、地域の健康課題をとらえ、地域看護活動の必要性を理解することができる。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 「地域の理解」について、テキストに添いつつ、学生自身が生まれ育った故郷や学院が立地する秋田市を題材に、グループワーク、フィールドワーク、発表、レポート等により学生が主体的に学習できるような授業内容とし、地域課題の理解・地域看護活動を学ぶ。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	地域とは何か～学生自身が生まれ育ったふるさとを描く	講義・グループワーク	森合
2	健康関連のデータを分析し、地域特性を理解する	講義・グループワーク	森合
3	私たちの住む秋田市の特徴を知る～「健康あきた市 21」から	講義・グループワーク	森合
4	秋田市の健康状況を学生のレポートから深堀する	講義・グループワーク	森合
5	人々の暮らしと健康との関係～秋田市の健康課題とその対策を学ぶ	講義	森合
6	地域・在宅看護の役割について	講義・グループワーク	森合
7	暮らしの基盤としての「地域」をシステム理論で理解する	講義・グループワーク	森合
8	これからの地域・在宅看護に期待されること	講義	森合
9	地域の特性・人々の暮らしから、地域を理解し、ニーズを視る	講義	清水
10	私達の地域の理解:グループワーク・フィールドワークの計画	講義・グループワーク	清水
11	私達の地域の理解:グループワーク・フィールドワークの実施・まとめ	講義・フィールドワーク	清水
12	私達の地域の理解:グループワーク・フィールドワークのまとめ	講義・グループワーク	清水
13	私達の地域の理解:グループワーク・フィールドワーク発表会①	グループワーク	清水
14	私達の地域の理解:グループワーク・フィールドワーク発表会②	グループワーク	清水
15	私達の地域の理解まとめ:地域看護活動について	講義	清水
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 森合担当 50%(筆記試験 40% 課題・グループワーク 10%) 清水担当 50%(ルーブリック評価:グループワーク・フィールドワーク)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目 在宅ケアシステム	授業担当者 佐々木 宏幸	所属 元ウエルビューいずみ障害福祉サービス	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 地域で暮らすすべての人々とその家族に看護を提供する際の基本的な知識や姿勢、その根拠となる法制度と活用について理解する。			
<b>授業の概要</b> 地域で暮らすすべての人々とその家族を看護の対象とした療養の場の拡大を踏まえ、地域における多様な場での看護実践を目指す基盤をつくるため、地域包括ケアシステムと地域共生社会の概要、地域療養を支える制度、在宅生活におけるケアマネジメントなどについて学ぶ。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 学習者としての自覚をもって、ふさわしい態度・姿勢で授業に参加・受講してください。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	地域包括ケアシステムと地域共生社会①～地域包括ケアシステムの定義・多様性を尊重する時代・自分らしい暮らし方とは何か～	講義	
2	地域包括ケアシステムと地域共生社会②～地域包括ケアシステムが必要なわけ・あなたはどこでだれとどのように暮らしたいか～	講義	
3	地域包括ケアシステムと地域共生社会③～地域包括ケアシステムの構成要素・4つの助け・地域包括ケアシステムの推進～	講義	
4	地域包括ケアシステムと地域共生社会④～地域共生社会のビジョン～	講義	
5	地域療養を支える制度①～社会保障制度について・医療保険制度の概要と給付の仕組み～	講義	
6	地域療養を支える制度②～生活保護制度の概要・公費負担医療に関する法制度～	講義	
7	地域療養を支える制度③～権利擁護について・認知症基本法・虐待防止法～	講義	
8	介護保険制度について①～制度創設の経緯・介護保険制度の概要と給付の仕組み～	講義	
9	介護保険制度について②～地域包括支援センターの概要・地域ケア会議～	講義	
10	障害のある人を支える法律①～障害とは何か・障害者総合支援法・社会的障壁の除去～	講義	
11	障害のある人を支える法律②～障害者手帳・障害年金・障害者差別解消法・ICF(国際生活機能分類)の特徴～	講義	
12	ケアマネジメント①～ケアマネジメントとその過程・ケアマネジャーの役割～	講義	
13	ケアマネジメント②～ICF 思考を活用し事例情報を整理し分析する・ケアプランの作成をイメージする～	講義	
14	ケアマネジメント③～ICF 思考を活用し事例情報を整理し分析する・ケアプランの作成をイメージする～	講義	
15	ケアマネジメント④～ICF 思考を活用し事例情報を整理し分析する・ケアプランの作成をイメージする・振り返り	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 公衆衛生がみえる 2024-2025 第6版 メディックメディア			
<b>評価の方法</b> 筆記試験(100 点満点)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 地域・在宅看護の対象理解	授業担当者 堀井 喜世子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
<b>授業の目的</b> 地域で生活する人々を理解し、対象の生活特性に合わせた看護を考える思考過程を形成するために、「人の暮らし」に焦点を当てた情報を収集する力を養う。			
<b>授業の概要</b> 事例のライフストーリーを活用したロールプレイ・シミュレーションを行い、対象の生きてきた背景や価値観、人生観を含めた「その人」を情報収集し、それらが「その人の暮らし」に影響し、生活が営まれていることを理解できるように、グループワークを行う。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	暮らすということ	講義	
2	私のライフヒストリーとライフストーリー(グループ交流)	グループワーク	
3	Aさんのライフストーリー 情報収集:Aさんの生活環境を知る(ロールプレイ・シミュレーション)	演習	
4・5	Aさんのライフストーリー 情報収集:Aさんの語り、インタビュー(ロールプレイ・シミュレーション)	演習	
6	Aさんのライフストーリー Aさんの暮らしを考える	グループワーク	
7・8	Aさんのライフストーリー グループ発表と振り返り	講義・発表	
<b>テキスト</b> 配布資料			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 課題レポート ロールプレイ、グループワークへの参加態度を含め総合的に評価する			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 成人看護学概論	授業担当者 堀 裕美	所属 元 中通高等看護学院	
開講時期:前期～後期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 成人期にある人々の生活と健康について理解を深め、健康を保持・増進するための看護アプローチの基本を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 成人期は人生の中でもっとも長く、社会の中心的な役割を担う時期でもあり、環境や習慣、生活ストレスなど健康生活を脅かす問題を抱えやすい。それらの背景を理解した上で、成人期の健康を保持・増進できるよう援助することが重要である。 「身近な“成人期”にある大切な人の健康を守ろう！プロジェクト」に取り組むことで、観察できる力を養うとともに、身近にいる成人期にある大切な人の健康、生活、環境を関連付けながら、看護の視点で大切な人の健康を守るための提案をする。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 授業の中に適宜簡単なバズセッション(グループで自由に討議し、代表が発表。さらに参加者全体としての討議を進める学習法)を盛り込むので、クラスメイトと積極的に意見交換をして、自分の考えを深めよう。 プロジェクト学習は、個人ワーク、自分の意思で進めていく学習です。ゴール達成のために計画的に取り組もう。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	大人であるということ 青年期の特徴	講義・Gワーク	
2	成長発達の特徴～壮年期・向老期	講義	
3	身体機能の特徴と看護 対象の生活-働いて生活を営むこと	講義	
4	生活と健康 健康を脅かす要因と看護～成人期にみられる健康障害とその対策	講義	
5	ヘルスプロモーション 健康観と保健行動	講義	
6	大人の学習ー学習に基づく行動形成 行動変容を促進する看護ケア	講義	
7	看護実践における倫理的判断および意思決定支援	講義	
8	慢性病とセルフマネジメント(1) 慢性病とともに生きる人を理解する	講義	
9	慢性病とセルフマネジメント(2) 慢性病とともに生きる人を支える	講義	
10	プロジェクト学習 進め方	講義	
11	プロジェクト学習 情報収集のフェーズ	グループ交流	
12	プロジェクト学習 製作のフェーズ	講義・個人ワーク	堀 他5名
13	プロジェクト学習 プレゼンテーションのフェーズ	成果の共有	堀 他5名
14	プロジェクト学習 プレゼンテーションのフェーズ	成果の共有	堀 他5名
15	プロジェクト学習 成長報告のフェーズ	講義・個人ワーク	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 成人看護学総論 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 必要に応じて講義の時に紹介			
<b>評価の方法</b> 筆記試験(70点) プロジェクト学習(30点)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

## プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	成人看護学概論 「身近な“成人期”にある 大切な人の健康を守ろう！」プロジェクト
講師／ファシリテータ・協力者ほか	(スーパーアドバイザー：鈴木敏恵先生) 堀 裕美・佐々木聖子・近江 薫・秋山祥子・渡部暢子・加藤香織
単位・時間・受講対象(人数)	成人看護学 成人看護学概論 1単位 (6回・12時間／15回・30時間) 対象 中通高等看護学院 1年生 50名
期間	2025年7月～2026年1月
概要  (社会的意義)	<p>&lt;プロジェクト学習の展開&gt;</p> <p>このプロジェクトは、看護を学び始めてまだ4か月の学生たちが、人々のセルフマネジメント力を育て、患者の生活改善に最も力を発揮する看護師の役割を学ぶ第一歩となる。看護の目で人の健康を観察できる力、教科書とリアルを常に一致させる知的習慣を身につけることをねらいとする。</p> <p>当たり前近くに近くにいる人を、大切な人として認識し、健康の視点で対象を観察し、いつまでも健康で長生きしてほしいという願いをかなえるための提案をする。対象は、身近にいる成人期(壮年期30～60歳、向老期60～64歳)にある人とし、インタビューや観察を行い、情報収集により現状把握する。「課題」を見つけ、今の生活や行動、ふるまいをどう変化させたいのか、具体的でその人にとってベストな提案を考える。</p> <p>つぎのようなビジョンとゴールの元、プロジェクト学習を実施する。</p> <p>&lt;「身近な“成人期”にある大切な人の健康を守ろう！」プロジェクト&gt;</p> <p>*ビジョン(願い)：身近な“成人期”にある大切な人が、健康で長生きしてほしい</p> <p>*ゴール(具体的な目標)：「身近な“成人期”にある大切な人の健康を守る」提案集をつくる！</p> <p>&lt;対象は成人期&gt;</p> <p>なぜ成人期を対象とするか、それは次のような背景からである。</p> <p>健康問題は時代により大きく変わる。現在の成人期の健康問題の中心は、飽食、運動不足、喫煙などの好ましくない生活行動に由来する慢性疾患となった。しかし、多くの人々は、生活を自分でかえられない。人々が望ましい生活行動をとれるよう支援することが必要であり、その問題解決には、健康問題と生活援助の双方に唯一専門性を持つ看護学の貢献が不可欠である。看護師は、患者を気遣い寄り添い、感情に巻き込まれながら患者に接近し、患者と相互作用を起こすことによって、患者の内なる力を引き出すことができる。人々のセルフマネジメント力を育て、患者の生活改善に最も力を発揮するのは看護である(医学書院「看護研究」より抜粋)。</p> <p>&lt;社会的意義&gt;</p> <p>*成人期にある大切な人の生活改善で生活習慣病予防に貢献できる</p> <p>*医療費の削減に貢献できる</p>
キーワード	成人期、健康、生活、環境 仕事 客観的情報 セルフマネジメント セルフケア 食事習慣 栄養バランス 活動 休息 生活習慣 ヘルスプロモーション

<b>目的・身につく力</b>	<b>専門知</b> <input type="checkbox"/> 生活における健康を阻害する要因を知る <input type="checkbox"/> 看護師として人間を看て情報を得る <input type="checkbox"/> 課題発見力/主観・客観的情報の獲得 <input type="checkbox"/> 多面的に物事を見る力 <input type="checkbox"/> 成人期の健康課題を解決する力	<b>普遍知</b> <input type="checkbox"/> 自分の意志で目標へ向かう力 <input type="checkbox"/> 根拠ある情報を獲得する力 <input type="checkbox"/> 応用力：知識と現実を結びつける力
<b>学習の成果物</b>	「身近な“成人期”にある 大切な人の健康を守る」提案集	
<b>評価方法</b>	ポートフォリオ評価（成果や成長のプロセス/自己評価）30点 評価材料：凝縮ポートフォリオ、成長報告	
<b>実施月日</b> 7月～12月	7/ 9/ 9/8 9/～11月 11/下旬 1/中旬 1月下旬 <input type="checkbox"/> 準備 <input type="checkbox"/> ビジョン・ゴール <input type="checkbox"/> 計画 <input type="checkbox"/> 情報・解決策 <input type="checkbox"/> 制作 <input type="checkbox"/> プレゼン <input type="checkbox"/> 再構築 <input type="checkbox"/> 成長確認	
<b>講義室・場所</b>	<b>教室または図書室</b>	
<b>展開内容</b>	<p style="text-align: center;"><b>講義・AL</b></p> <p>導入 7月 &lt;準備のフェーズ&gt;  プロジェクト内容の説明  「大切な人の健康を守ろう！プロジェクト」として、どんなことをやるのかを理解する。そのためにプロジェクト学習の基本フェーズを見て、これを「大切な人の健康・生活」という題材で行う流れをイメージし、そこで身につく力を意識することも合わせ、学習者一人ひとりがどんなふうに進めたらいいのかを理解する。  <input type="checkbox"/>プロジェクト全体の題材（テーマ）とゴールを知る  <input type="checkbox"/>プロジェクト展開の流れをつかむ  <input type="checkbox"/>「S情報・O情報」講義  時間外（夏季休暇中） 対象者の決定  <input type="checkbox"/>観察を通しもっとも生活改善を必要とする人を対象者に選ぶ</p> <p>1回目 9月 &lt;ビジョン・ゴールのフェーズ&gt;  <input type="checkbox"/>「課題解決の思考プロセス」（資料S）参考に課題の明確化  <input type="checkbox"/>マイゴールの設定  &lt;計画のフェーズ&gt;  <input type="checkbox"/>工程表の説明  <input type="checkbox"/>ゴール到達に必要な情報や作業、時間配分を計画する  <input type="checkbox"/>目標達成のためにすべきことを戦略的に考え計画書を作成する  “すべきこと”にモレがないか仲間同士で見てアイデアや情報を提供し合う  時間外 9月～10月 &lt;情報・解決策のフェーズ&gt;  <input type="checkbox"/>情報・解決策について説明  <input type="checkbox"/>ゴールに向かうために有効な根拠に基づいた情報を得、具体的な工夫、解決策を生み出し、得た情報をGoogle クラスルーム内ポートフォリオにアップする。</p> <p>2回目 10月  <input type="checkbox"/>考えるために情報は足りているか？ グループ交流  時間外 コーチング ～知識を現実につなげる力を引き出す</p> <p>3回目 11月～1月 &lt;制作のフェーズ&gt;  <input type="checkbox"/>制作およびプレゼンテーションについて説明する  <input type="checkbox"/>凝縮ポートフォリオ1枚に図やグラフ、簡潔な文章を組み合わせ、プレゼンテーション用に表現する。  時間外 コーチング ～プレゼン準備</p>	

	<p>4・5回目 1月中旬 &lt;プレゼンテーションのフェーズ&gt;  プレゼンテーションする</p> <p><input type="checkbox"/> 他者の発表を聞いて、良いところ、こうすればもっと良くなるという視点でメッセージをGoogle クラズルーム内に書く。</p>
	<p>6回目 1月下旬 &lt;成長確認&gt;</p> <p><input type="checkbox"/>凝縮ポートフォリオ修正、提出</p> <p><input type="checkbox"/>成長確認 …成長報告書、成長エントリー、レポートを書き提出</p>
テキスト・参考図書	<p>医学書院「解剖生理学」「成人看護学 呼吸器、循環器、消化器、脳・神経、女性生殖器、運動器、内分泌・代謝、腎・泌尿器、血液・造血器、アレルギー・膠原病・感染症、皮膚、眼、耳鼻咽喉、歯・口腔」「病態生理学」「基礎看護学概論」「成人看護学総論」「臨床薬理学」「臨床微生物学・医動物」「生化学」「栄養学」「栄養食事療法」「臨床検査」「病理学」「病態生理学」「公衆衛生」「成人看護学総論」「基礎看護技術Ⅰ」「地域・在宅看護の基盤」「人間関係論」「心理学」「教育学」「文化人類学」</p> <p>メディックメディカ 「病気が見える vol.1 消化器第5版」</p> <p>医学書院「アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する 与えられた学びから意志ある学びへ」</p>
履修要件	プロジェクト学習参加
他講義との関連	生活と健康 基礎看護学概論
受講生へのメッセージ	<p>看護の学習を始めて4か月。生活改善プロジェクトでは、自分の健康は、生活を整えることが大事であることに気づいたはず。成人期にある人は、どのような生活をし、どのような環境の中で生きているのか、また、どのような制度で健康が守られているのか、社会や環境を俯瞰したうえで、身近にいる大切な人の生活を看護の眼で見つめて、どうすれば健康で長生きできるかを考えて欲しい。</p>
プロジェクト学習 eラーニング	<p>検索 <a href="#">未来教育オンライン講座</a></p> <p><a href="http://www.mm-miraikyoku-onlinecourse.com/">http://www.mm-miraikyoku-onlinecourse.com/</a></p>

科目名 周手術期援助論	授業担当者 佐藤 尚樹	所属 中通総合病院	
開講時期:中期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
<b>授業の目的</b> 周手術期における基本的な看護についての理解を深め、周手術期の過程に応じた看護実践に必要な能力を養う。			
<b>授業の概要</b> 周手術期を術前・術中・術後の各期に分け、その時期の基本的な看護を学ぶ。 術前の看護では、意思決定から手術に向けての一般的準備や看護の流れ、手術を受ける患者の心理と心の準備を手助けする重要性を理解する。 術中の看護では、他職種との共同作業である手術室での看護師の役割や、安全管理、手術体位や麻酔によって引き起こされる二次的合併症の予防に関する看護の実践を学ぶ。 術後は麻酔および手術侵襲によって、生体に様々な変化が生じる。術後の看護では、患者の状態を十分に把握し、おこりうる状態の予測に基づいて緻密な観察が重要となる。術後患者のアセスメントの視点や術後合併症の予防の重要性を学ぶ。 演習を通じて、術後侵襲のある患者への安全・安楽を考慮した看護の提供の必要性和手順を学ぶ。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> スライドを用いた講義のため、必要に応じて資料のプリントアウトを行う。 スライドの内容以外にも必要事項を述べることもあるため、聞き漏らがないよう集中して講義を受けてほしい。 演習に向け、基本的な看護技術(臥床患者の寝衣交換、無菌操作の方法、テープ類の正しい貼り方・剥かし方)の振り返り。 演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	周手術期看護の概論	講義	
2	術前患者の看護	講義	
3	術中患者の看護	講義	
4	術後患者の看護・回復を促進するための看護	講義	
5	術後合併症の予防と発症時の対応	講義	
6	術前の看護の実践	演習	
7	術中の看護の実践	演習	
8	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります



<b>科目名</b> 成人看護援助論 I (1) 運動器	<b>授業担当者</b> 嵯峨 宏美	<b>所属</b> 中通総合病院	
<b>開講時期</b> :中期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(運動器 10 時間)	
<b>授業の目的</b> 運動機能障害をもつ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。			
<b>授業の概要</b> 成人期の健康障害の中で、骨・関節・筋疾患ならびに脊髄疾患に伴う運動機能障害に対して整形外科的治療を受ける患者の看護を学ぶ。 リハビリテーションにおける各専門職との連携を学び、障害された運動機能及び、その人らしい生活を再獲得するための機能回復への援助、精神的援助、社会資源活用について学ぶ。 成人期の看護に必要な看護技術について、より安全な技術を提供するための留意点を考え、患者の状況に応じた援助方法について学ぶ。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	整形外科疾患の援助のための主な知識と技術	講義	
2	保存療法を受ける患者の看護	講義	
3	手術を受ける患者の看護	講義	
4	経過に応じた患者の看護	講義	
5	疾患をもつ患者の看護	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 運動器 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 成人看護援助論 I 100 点満点中の 30 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 成人看護援助論Ⅰ(2) 脳神経	<b>授業担当者</b> 鈴木 良輔	<b>所属</b> 中通リハビリテーション病院	
<b>開講時期</b> :中期～後期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(脳神経 12 時間)	
<b>授業の目的</b> 脳神経機能障害を持つ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。			
<b>授業の概要</b> 脳・神経は生命維持・身体機能の中枢である。脳・神経が障害されることで、人間の身体にどのような変化が現れるのか、また身体的、精神的、社会的影響を考え、さまざまな障害を抱えながらそれぞれの生活・人生において生きがいや満足感を高めていけるよう適切な看護の方法について学習する。 看護活動では、脳神経疾患の病態生理の知識の上になら、看護の意義に立ち戻りながら実際の看護実践につなげられるように理解を深めてほしい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 事前学習として「人体の構造」「人体の機能」「病態と診療Ⅰ(1)脳神経」の授業内容を確認しておくことを勧める。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	患者の特徴と看護の役割	講義	
2	疾患をもつ患者の経過と看護	講義	
3	症状・障害を持つ患者の看護:意識障害・運動麻痺	講義	
4	症状・障害を持つ患者の看護:頭蓋内圧亢進症状・瞳孔異常	講義	
5	症状・障害を持つ患者の看護:高次脳機能障害	講義	
6	治療・処置を受ける患者の看護:検査と手術	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統別看護学講座 専門 脳・神経 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験および課題・授業態度により総合的に評価する。 成人看護援助論Ⅰ 100 点満点中の 45 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 成人看護援助論 I (3) 女性生殖器・乳腺	<b>授業担当者</b> 齊藤 豊子	<b>所属</b> 中通高等看護学院	
<b>開講時期</b> : 中期	<b>単位数</b> : 1 単位	<b>時間数</b> : 30 時間 (女性生殖器・乳腺 8 時間)	
<b>授業の目的</b> 性機能障害を持つ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。			
<b>授業の概要</b> 女性生殖器疾患によって生じる生殖器の障害は、臓器だけでなく、女性のライフサイクルをも変化させてしまう。そのため女性の健康障害に対する看護においては、女性のライフステージと社会の中での立場を理解し、生殖器の疾患を抱えた女性が心身ともに充実した生活を送るための支援を、検査・治療に対する援助の視点、心理的支援、退院後の生活支援などについて学習する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 既習学習を含め関連する内容を教科書で事前に確認し、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。提示された事前課題については事前に印刷して取り組み授業に臨む。必要時資料は事前に印刷し、準備すること。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	女性生殖器疾患を学ぶための基礎知識〈診察・検査と看護〉	講義	
2	女性生殖器の主な疾患と看護	講義	
3	主な治療・処置の伴う看護〈手術療法・ホルモン療法〉	講義	
4	乳癌患者の看護 ・検査〈マンモグラフィー検査、病理検査〉 ・乳癌の手術療法の看護	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> ナーシンググラフィカEX 疾患と看護⑨ 女性生殖器 メディカ出版			
<b>参考書・指定図書</b> 病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 メディックメディア			
<b>評価の方法</b> 筆記試験(成人看護援助論 I 100 点満点中の 25 点)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 成人看護学援助論Ⅱ (1) 循環器	授業担当者 清水 有香	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期～後期	単位数:1単位	時間数:30時間(循環器12時間)	
<b>授業の目的</b> 循環機能障害をもつ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。			
<b>授業の概要</b> 心臓と血管で構成される循環器系は全身の血液循環を担っており、呼吸器系とも密接な機能をもつなど、生命活動の根幹である。その機能低下や障害は、生命の危機をもたらすが、生命の危機的な状況を脱しても、身体的・精神的・社会的にさまざまな問題を引き起こす。また、循環機能障害は、日常生活習慣上に発症の危険因子があることが多く、寛解と悪化を繰り返し進行し、合併症を引き起こしやすいため、生涯にわたる正しい自己管理行動が重要となる。循環機能障害をもつ対象の身体的・精神的・社会的問題が軽減し、再発や進行を予防しながら、QOLを維持できるようにするための看護について学習する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 構造と機能は、疾患及び症状の発生機序と関連付けて理解を深めること。教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。また、提示された資料に基づき事前自己学習し、必要時資料は印刷して事前に準備すること。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	循環器の構造と機能	講義	
2	心不全患者の看護① ・左心不全と右心不全の主要な症状と看護	講義	
3	心不全患者の看護② ・急性心不全と慢性心不全における看護	講義	
4	冠血流障害(虚血性心疾患)患者の看護① ・狭心症と心筋梗塞における看護	講義	
5	冠血流障害(虚血性心疾患)患者の看護② ・心臓リハビリテーション ・心臓カテーテル検査・治療を受ける患者の看護	講義	
6	ペースメーカー植え込み術を受ける患者の看護 ・開心術を受ける患者の看護	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 循環器 成人看護学3 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア ブックライブラリー 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント 医学書院			
<b>評価の方法</b> 筆記試験。成人看護学援助論Ⅱ 100点満点中40点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 成人看護援助論Ⅱ (2) 呼吸器	<b>授業担当者</b> 佐々木 正吾	<b>所属</b> 秋田県立医療療育センター	
<b>開講時期</b> :中期～後期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(呼吸器 10 時間)	
<b>授業の目的</b> 呼吸機能障害をもつ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。			
<b>授業の概要</b> 人間にとって呼吸は代謝を行うために必要な酸素を体内に取り入れ、循環は血液を介して代謝に必要な酸素を全身に運ぶ、生命活動である。呼吸と循環は、人間が生きるための重要な活動であり、停止すると直ちに死に至ってしまうため、生命の源であるといえる。これらの機能が障害されると生命が脅かされ、日常生活活動が困難になり死への不安も強くなりやすい。そのような対象の身体的・精神的・社会的側面を考慮した看護援助について学習する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書等をあらかじめ見て、事前学習してから講義を受講することが望ましい。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	呼吸機能障害とは 呼吸機能障害を持つ患者の主な検査	講義	
2	気管支喘息患者の看護	講義	
3	慢性閉塞性肺疾患患者の看護	講義	
4	人工呼吸器療法を受ける患者の看護	講義・演習	
5	肺切除術を受ける患者の看護 慢性疾患におけるエンド・オブ・ライフケア	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 呼吸器 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 病気がみえる vol.4 呼吸器 第3版 メディックメディア			
<b>評価の方法</b> 成人看護援助論Ⅱ100 点満点中の 30 点 筆記試験、授業態度を総合的に評価する。			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 成人看護援助論Ⅱ (3) 腎・泌尿器	<b>授業担当者</b> 能登谷 恵利子 鈴木 由美子	<b>所属</b> 中通総合病院 中通総合病院	
<b>開講時期</b> :中期～後期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(腎・泌尿器 8 時間)	
<b>授業の目的</b> 腎・泌尿器機能障害をもつ対象を生活者として理解し、症状、治療に応じた看護ができる能力を養う。			
<b>授業の概要</b> 泌尿器系疾患を持つ人や腎臓病を持つ人の身体面(症状観察、症状マネジメント)、心理面(不安・苦痛への配慮、プライバシー保護、人間の尊厳、羞恥心への配慮)、社会面(患者・家族への援助と多職種連携、社会資源の活用)から全体像を捉え、その人らしい暮らしへつなげる適切な援助について学ぶ。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 事前学習なし			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	腎・泌尿器科疾患を持つ人の身体面、心理面、社会面、症状のアセスメントと看護	講義	能登谷
2	腎泌尿器科疾患の手術療法を受ける患者のアセスメントと看護	講義	能登谷
3	慢性腎臓病の各段階の特徴と療養生活支援	講義	鈴木
4	腎不全治療(血液透析、腹膜透析、腎移植)を受ける患者の看護	講義	鈴木
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 腎・泌尿器 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 透析ハンドブック 医学書院 病気がみえる vol.8 腎・泌尿器 メディックメディア 透析ケア			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 成人看護援助論Ⅱ 100 点満点中の 30 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 成人看護援助論Ⅲ (1) 消化器	<b>授業担当者</b> 工藤 洋平	<b>所属</b> 中通高等看護学院	
<b>開講時期</b> :中期～後期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(消化器 12 時間)	
<b>授業の目的</b> 消化・吸収機能障害、栄養代謝機能障害をもつ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。			
<b>授業の概要</b> 消化器は、食物の摂取・消化・吸収・代謝・排泄に関わる器官である。機能低下によって起こる症状、原因となる疾患とその治療の目的を理解し、疾病によって生じる患者の身体的、心理・社会的影響を考え、生活環境の変化を捉えながらその人らしい生活ができるよう適切な看護の方法について学習する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> テキストや Learning Bowl に挙げた資料等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。 授業の資料は必要時事前に印刷し準備すること。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	腹部のアセスメントと観察	講義	
2	症状に対する看護/検査時の看護	講義	
3	肝障害のある患者の看護	講義	
4	胃の手術を受ける患者の看護	講義	
5	大腸の手術・ストーマ造設術を受ける患者の看護	講義	
6	胆石・膵炎の看護/膵臓の手術を受ける患者の看護	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 消化器 医学書院 病気がみえる vol.1 消化器 メディックメディア			
<b>参考書・指定図書</b> 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 成人看護援助論Ⅲ100 点満点中の 40 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療Ⅲ(2) 内分泌・代謝	<b>授業担当者</b> 松田 大輔	<b>所属</b> 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> :中期～後期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間 (内分泌・代謝 8 時間)	
<b>授業の目的</b> 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護師が果たす役割を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 一般的な講義を 1 時間行う。 理解を深めるために看護師国家試験問題を使用してミニテストを行い解説を行う。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	内分泌・代謝器官の構造と機能についてその仕組みが分かるように説明するとともに、内分泌代謝疾患に必要な検査について説明し理解する。	講義	
2	代表的な代謝疾患として糖尿病を取り上げ、その疾患概念、治療方法、合併症について説明し理解する。	講義	
3	代表的な内分泌疾患として甲状腺疾患を取り上げ、その疾患概念、治療方法、合併症について説明し理解する。	講義	
4	その他の内分泌代謝疾患について最小限必要な知識を整理する。	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 内分泌・代謝 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 日本糖尿病学会編 糖尿病治療の手引き 南江堂			
<b>評価の方法</b> 筆記試験(看護師国家試験問題など) 病態と診療Ⅲ 100 点満点中の 30 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります



<b>科目名</b> 成人看護援助論Ⅲ (3) 造血・免疫・感染	<b>授業担当者</b> 小田嶋 陽子	<b>所属</b> 中通高等看護学院	
<b>開講時期</b> :後期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間 (造血・免疫・感染 10 時間)	
<b>授業の目的</b> 造血・免疫機能障害の疾患、感染症を理解し、症状・治療に応じた看護ができる知識・スキルを養う。			
<b>授業の概要</b> 造血機能障害は治療法が進歩したとはいえ、未だ急性増悪と寛解を繰り返しながら予後不良の経過をたどることが多く、治療による入退院等の環境の変化や副作用出現の苦痛、ボディイメージの変容、家族・社会生活での役割の変化など、身体面だけでなく精神面・社会面での援助が必要とされる。また、免疫機能障害はアレルギーから膠原病・難病指定疾患まで幅広く、患者は特徴的な症状を呈しながら副腎皮質ステロイド薬をはじめとする長期の薬物療法を必要とすることが多い。そして、感染症は多くの疾患の中で罹患率や死亡率のかなりの部分を占めている。この講義では造血・免疫・感染についての知識を深め、患者に対するアセスメントの視点や適切な看護の方法について学習する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> ラーニングポウルにアップされている資料を準備し臨むこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	造血機能障害をもつ患者の特徴と看護 貧血・輸血時・易感染状態・出血傾向にある患者の看護	講義	
2	白血病患者の看護 白血病の患者の看護事例	講義	DVD の視聴
3	造血幹細胞移植の看護	講義	
4	アレルギー疾患患者の看護 膠原病患者の看護	講義	
5	感染症患者への看護	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 病気がみえる vol.5 血液 メディックメディア 造血幹細胞移植の看護 改訂第2版 南江堂			
<b>評価の方法</b> 筆記試験とレポート 成人看護援助論Ⅲ 100 点満点中の 30 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 老年看護学概論	授業担当者 日野 由樹子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 高齢者の特徴と高齢者を取り巻く医療福祉の動向を理解し、看護の果たす役割を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 我が国の平均寿命延伸の結果、老年期は平均して 20 年程度と見込まれている。人生の終盤を「住み慣れた地域で最期まで」過ごすためには、健康な時も病気を患った時も、最善の看護を提供することが看護師には求められる。老年看護では、高齢者一人ひとりの人生を考えながら、健康レベルの多様な水準と場の広がりに対応できる能力が必要とされる。 この授業では、高齢者の特徴と高齢者を取り巻く社会の理解、高齢者医療福祉の動向と看護に求められるものを学んでいく。高齢者疑似体験の演習を取り入れ、加齢に伴った身体的変化を体験し、高齢者の思いや高齢者看護の留意点が考えられる授業としたい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	老いるということ、老いを生きるということ	講義	
2	老年看護のなりたち	講義	
3	超高齢社会と社会保障	講義	
4・5	高齢者のヘルスアセスメント	講義	
6・7	高齢者の生活機能を整える看護	講義	
8	健康逸脱からの回復を促す看護	講義	
9	治療を必要とする高齢者の看護	講義	
10・11	生活・療養の場における看護	講義	
12	高齢者のリスクマネジメント	講義	
13	エンドオブライフケア	講義	
14・15	高齢者疑似体験	演習	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた 老年看護技術 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 授業態度・課題の取り組み状況・筆記試験から総合的に評価する。			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 基礎看護学実習Ⅰ	<b>授業担当者</b> 清水 有香	<b>所属</b> 専任教員 中通高等看護学院
<b>開講時期</b> :中期	<b>単位数</b> :1単位	<b>時間数</b> :40時間
<b>授業の目的</b> 患者への接し方を学び、基本的ニーズに応じた援助が実施できる。		
<b>授業の概要</b> 本実習では、看護の対象とその療養環境について学ぶ。また、病棟で働く看護師とともに患者のベッドサイドに行き、どのように看護しているのか看護の実際を見て学ぶことにより、看護の仕事を具体的に知ることができる。また、学生1又は2名で患者1名を受持ち、関係作りの基本である会話の導入及び発展のさせ方や、対象に応じた接し方を学ぶ。患者とのコミュニケーションやアセスメント、電子カルテで得た情報から、患者を理解し、基本的ニーズが充足されているかを考え、看護援助を行う。安全、安楽、患者の反応から看護援助の妥当性を評価する。見学や実践などの体験を通し、対象の理解や看護援助について考える機会とする。		
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 実習要綱及びガイダンス資料を確認し、実習目的及び内容に関してイメージできていることが望ましい。また、提示された事前学習課題や実習ガイダンス資料に基づき事前自己学習・技術練習をし、実習要綱等必要な資料は印刷して事前に準備すること。		
<b>授業計画</b> 1. 日程・実習場所は、ガイダンスに準じる。 2. 病院内、病棟内を見学し、施設の概要を知る。 3. 看護師の業務に同行し、見学する。 4. 患者1名を学生1～2名で受け持ち、コミュニケーションの実際を学ぶ。 5. 患者とのかかわりから、ニーズを把握し、用紙1～3に整理する。また、援助の必要性を導き出し、看護援助を展開する。 6. 1日の実習内容と学びはカンファレンスで交流した後、用紙4～6に整理し、安全・安楽・自立の視点から、援助の妥当性を振り返る。また、実習終了カンファレンスで看護についての学びを交流する。		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院		
<b>参考書・指定図書</b> 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア		
<b>評価の方法</b> 実習評価表に基づいて評価する。		

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります